ランドスケープシンポジウム 2011　　報告書

テーマ

中島公園の資産と今後の活用について考える

－「中島公園三十三選選定事業」キックオフイベント－

日時：平成 23 年 10 月 22 日（土）10：00～15：00
場所：中島公園，北海道立文学館　地階講堂

第１部　「中島公園の資産と今後の活用について考える」シンポジウム
第２部　中島公園見学ミニツアー

主催：ランドスケープシンポジウム実行委員会
共催：　（社）日本造園学会北海道支部，（社）北海道造園緑化建設業協会
（社）ランドスケープコンサルタンツ協会北海道支部
（財）札幌市公園緑化協会

平成24年3月10日

はじめに

LAシンポジウム実行委員会を代表して，「中島公園の資産と今後の活用を考える」シンポジウム開催にあたり，ご尽力，ご後援を頂戴した関係各位の方々に対しまして厚く御礼申し上げます。

当日，第一部，「中島公園の資産と今後の活用について考える」シンポジウムにおいて，笠 康三郎 （(社)日本造園学会北海道支部副支部長）氏による基調講演では，「中島公園が有する歴史的・文化的資産」という話題で，これまでの中島公園の由来を含めて示唆に富むお話をいただきました。引き続き開催されたパネルディスカッションにおきましては，パネリストの札幌彫刻美術友の会会長　橋本　信夫さん，中島公園ガイド「中島パフェ」制作管理者の石川　博司さん，コメンテーター笠　康三郎さんをお迎えし，それぞれの経歴や実務を背景に，興味深い話題提供をいただき，聴衆の方々の意見を端緒に，中島公園の将来を見据えた活発な論議を行い，多くの知見を得ることができました。

午後に入り，第二部，中島公園見どころ探訪ツアーはあいにくの雨模様のもと，笠 康三郎（(社)日本造園学会北海道支部副支部長）氏のご案内で園内にある由緒ある施設，特に，検討中であるところの“中島公園三十三選”の選定対象を中心に，その歴史的資産や価値，由来について，写真や図などを交えて，丁寧な説明を頂き，多くの方々から好評を頂戴することができました。

本報告書は，当日会場へお見えになれなかった方だけでなく，中島公園の資産を多くの市民に知っていただくという意図をもって，とりまとめたものです。
内容的には，不十分な点が多々あることを承知の上で，報告をさせていただくことにいたしました。今回のシンポジウムに対するご意見，ご批判，ご示唆をいただくことで，それを契機にし，札幌都心の緑地のありようを論議する場となれば幸いです。

ランドスケープシンポジウム実行委員会
代表　　小林　昭裕

１．概要

中島公園は，1907（明治 40）年に長岡安平が中島公園設計方針を提出。長岡は，清流と藻岩山とその奥に連なる山々の眺めが素晴らしい景勝地が市街地の近くにあることを重要とみなし，中島公園を池の水景や藻岩山への眺望を活かし，自然の風致を織り込んだ「池泉回遊式」の庭として設計した。1909 年に中島公園の設計方針として三つの工区が示され，　第一区が自然の美景，池の拡張，遊船，岡田花園の改良，第二区が豊平川堤防整理，自然動物園設置，清水・池づくり，公会堂建設，第三区が池と植林，花卉の植栽，遊泳場の設置とされた。1910 年，長岡の設計に基づく第 1 期工事完成，皇太子が行啓され，中島遊園地を中島公園に改称した。

2011 年は，中島公園となってから，数えて 101 年にあたる。この節目を契機に，公園ウオッチングやシンポジウムを行い，これまで中島公園の果たして来た役割やこれからの未来像を，専門家と市民の方を交えて情報交換を行い，議論を展開した。

第１部　シンポジウム「中島公園の資産と今後の活用について考える」　10 :00～12 : 00

１．主催者挨拶と趣旨説明　10 : 00～10 : 10
　　小林　昭裕　　ランドスケープシンポジウム実行委員会代表

２．中島公園が有する歴史的・文化的資産　10 : 10～10 : 30
　　笠　康三郎　　(社) 日本造園学会北海道支部副支部長

３．パネルディスカッション　10 : 30～12 : 00
　　【パネリスト】　橋本　信夫　札幌彫刻美術友の会会長
　　石川　博司　中島公園ガイド「中島パフェ」制作管理者
　　【コメンテーター】　笠　康三郎　(社) 日本造園学会北海道支部副支部長
　　【コーディネーター】　小林　昭裕　専修大学北海道短期大学教授
　　12 : 00　終了

第２部　中島公園見どころ探訪ツアー　13 :00～14 : 40

このツアーは，中島公園のもっている歴史的，文化的，植物的，景観的な様々な資産を見て歩き，百数十年の歴史の積み重ねを実感していただくと共に，これらの資産についてどのように活用をしていくのか，思いを巡らせていただくことを目的としている。

■ 集合場所：　北海道立文学館前の広場
■ 参加費　：　無　料
■ 時　間　：　13 : 00～14 : 40
■ 案内人　：　笠　康三郎　(社) 日本造園学会北海道支部副支部長

２．　第１部　シンポジウム　　10：00～12：00
「中島公園の資産と今後の活用について考える」

(1)中島公園が有する歴史的・文化的資産 10：00～10：30

笠　康三郎　　(社)日本造園学会北海道支部副支部長

(Co 小林)

それでは只今より，ランドスケープシンポジウム 2011～中島公園の資産と今後の活用について考える～をテーマとした午前の部のシンポジウムを開催いたします。

本日のシンポジウムの実行委員長であり専修大学北海道短期大学の教授であります小林昭裕が進行役（Co:コーディネーター）を務めさせて頂きます。宜しくお願い申し上げます。

まず初めに，（社）日本造園学会北海道支部副支部長であり，現在中島公園で進めております「中島公園三十三選」プロジェクトの担当者でもいらっしゃいます有限会社緑花計画代表取締役笠康三郎さんから，中島公園の資産と今後の活用についてと題して講演をお願いいたします。

(笠)

私も札幌に長く住んでおりますけれども，この公園は大変見どころの多い場所だと思っています。

今日の資料はこの「中島公園 見どころ探訪ツアー」という表裏のもの中に，今回のために簡単な年譜を作ってみましたので，これらを見ながら説明させて頂きます。この年譜では左側に年代，右側に北海道や札幌の動き，そして中島公園周辺の動向ということで年譜を拾ってみました。

中島公園というところは非常に歴史のあるところで，これをどのように取り扱うかについて考えてみたのですけれども，この年譜にありますとおり，大きくは3つに分けると解りやすいと思います。

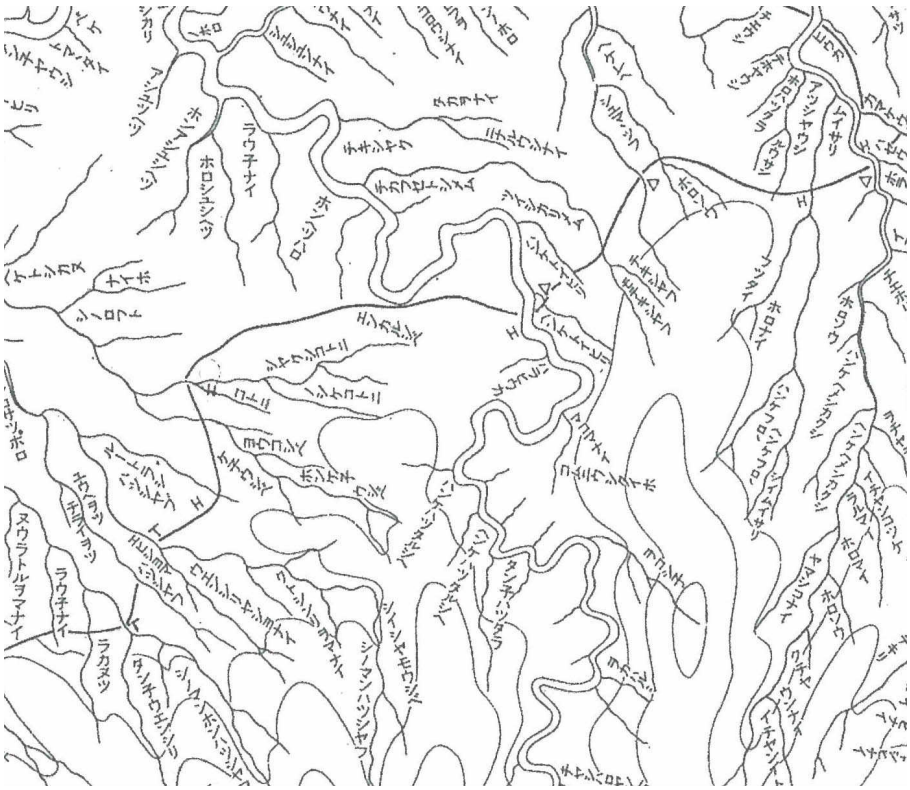
札幌の創建期，明治2年（1869年）に開拓使というものができて町づくりが始まります。ここは中島遊園地を経て中島公園になるわけですけれども，年譜でいいますと表側下の方，明治 43年（1910年）に「中島遊園地の整備，以降は中島公園と公称」とあるように，中島公園の歴史の一区切りとして捉えると分りやすいと思います。

次に中島公園が総合公園として，スポーツ施設もあり，文化施設もある，緑や水もあるという非常にバラエティーに富んだ公園として発展してきます。この年譜を書いていて思ったことは，昭和47年（1972年）札幌オリンピック冬季大会とあります。ちょうどここまでしか入らなかったということもありますが，右側に何か書こうと思ったのですが，私が札幌に住み始めたのがこの年なのです。昭和47年以降は私も住んでいるということで年譜はここまでとなりましたが，札幌はオリンピックを契機に大きく変わりますので，ここがもう一つの区切りだと思います。

札幌市民であれば散策するとか，スポーツに祭りにと，いろいろのところで関わってきた場所ですが，近年，スポーツ施設がほとんどなくなってきて，子供の国の代わりにKitaraができ，水や緑のオープンスペースに純化してきているといえるのではないでしょうか。

簡単に歴史を振り返ってみますけれども，まず中島公園という場所を考える場合には，ここか

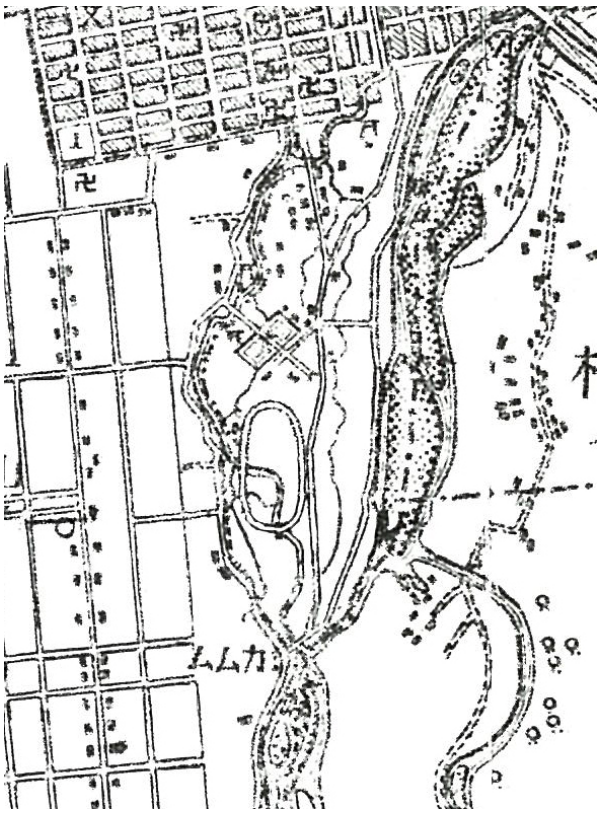
らスタートしなければいけないと私は考えるのです。安政年間，松浦武四郎が北海道を隈なく見て歩き，地理やアイヌの歴史などを聞き取りして歩いたのです。この場所に本府を定めるに当たっては，松浦の意見が非常に大きく影響したわけです。



（「札幌區史」（復刻板），名著出版，1973）

真ん中に流れているのがサッポロベツと呼ばれ，現在の豊平川です。エンカルシベは実際には藻岩山ですけれども，松浦の助言を基に，このあたりに本府を定めることとなりました。

実はここにパラピウカという地名があり，「広い玉石河原」というアイヌ語の意味をもっております。これは山田秀三さん（1899～1992・アイヌ語地名学者）というアイヌ語地名の第一人者の方の著作を読んでいくと，パラピウカに対する思い入れが非常に強いのです。ご存知のように札幌というのは豊平川扇状地の上に築かれていて，サッポロベツというのも乾いた大きな大地という意味を持っており，扇状地の特徴を現していた名前です。川の名称は，明治に入って豊平川という名前に変わりましたが，これはサッポロペツが平岸台地を削ってできた崖のことをアイヌ語でトイピラ(樋平と表記)と呼んでいたのですが，その音をとって豊平と名付けたと言われています。



（国土地理院複製　明治二十九年版五万分の一地形図，1971）

これは明治 29 年（1896 年）に陸軍測量部が作った最初の地形図ですけれども，この当時は札幌本府と山鼻屯田兵村の間に，鴨々川と豊平川本流との間に拡がる場所を鴨々中島と呼んでいたのですが，その上手に地名が一つあります。右からカムムと読むのですね。実はこれが何を意味するのか，昔から喧々諤々諸説がありました。

そもそもなぜ鴨々川と言う名前になったか？昔からいろいろ説がありました。アイヌ語で鮭を獲る曲げワッパを意味するとか，京都の鴨川に因んで付けられたが，川が 2 本だったので鴨々川になったとか，料亭「鴨川」があったからとか，鴨が沢山いたのでそう呼ばれたのだとか，諸説があります。

札幌在住の地名研究家で，牛鍋蝸牛さんという不思議な方がネット上にいるのですが，この方の説ではアイヌ語でカムカム，カモカモは覆い被さる，つまり土砂が覆い被さり詰まった所，つまり「豊平川が溢れて土砂が覆い被さる所」という意味で，それに鴨々という漢字を当てたというのが，最近では一番確実な説ではないかとされております。

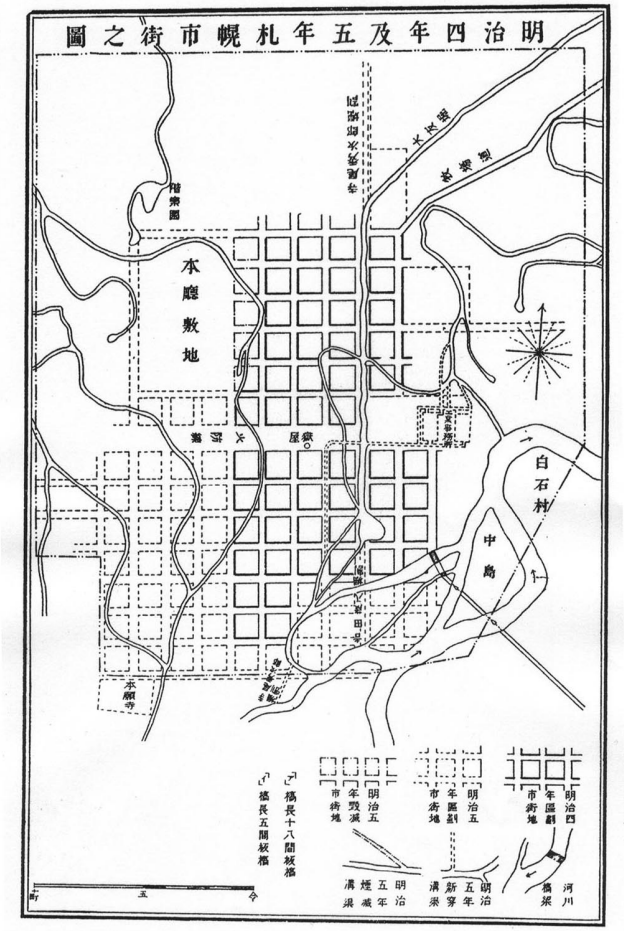
午後のツアーでも見て行きますけれども，鴨々川の畔には実際に料亭鴨川があったのですが，その隣には現在も福々屋という染物と洗い張りの店があります。公園の入り口のところには最近まで京美屋さんという染物屋がありましたが，鴨々川沿いには沢山の染物と洗い張りの店がずらりと並んでいた所でした。

残念なことに，鴨々川は河川改修によって昔の雰囲気は全くなくなりましたが，わずかに幌平橋のたもと近くに，古（いにしえ）の鴨々川を思い出させるような場所が残っております。これらのことを

考えると，中島公園は鴨々川とは切っても切れない関係にあることが分かります。

明治２年（1869 年）に札幌の本府建設が始まりますけれども，松浦武四郎の絵図で見ますと，豊平川の両側に志村鉄一（豊平区豊平３条１丁目付近）と吉田茂八（中央区南４条東４丁目付近）が渡し守として住んでいました。二軒の七名は，札幌に住んだ最初の和人であり，現在豊平橋の豊平側に志村鉄一の碑が，すすきの側に吉田茂八の碑が建っております。

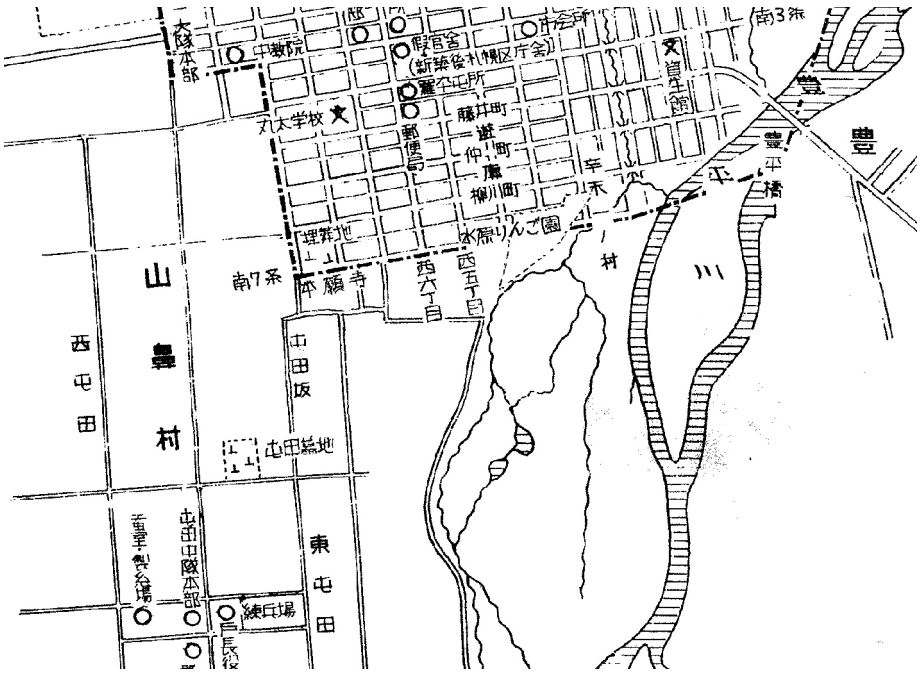
そこに島義勇判官（佐賀藩 1822～1874）が乗り込んで来て，このような町づくりを始めた訳です。しかし，島判官はわずか 70 日程でクビ（罷免）になり，その後を継いだのが岩村通俊判官（土佐藩 1840～1915）という人で，円山公園に銅像があります。岩村は，このような形で明治４年から５年にかけて，現在のような格子状の町割りを設定しました。



（「札幌歴史地図(明治編)」札幌市教育委員会編，北海道新聞社，1980）

当時の図面を見ましても，街中には千路に乱れる小川が当時でもたくさん残っており，豊平川もいっぱい分流が流れていたことが分かります。

明治４年，岩村判官は鈴木元右衛門に命じて，鴨々川の途中の池に貯木場を造るように命じました。現在の創成川の東側に，工業所という木材を加工する場所を設けましたが，伐採された木材を豊平川の上流から流送し，ここに一度材木を貯めて，更に創成川を流していくようにしたものです。これが現在の菖蒲池になっているわけで，中島での最初の人工的な施設でありました。



（「さっぽろ山鼻百年」，さろるん書房，1977）

これは山鼻百年史の中の図面ですが，この池に鈴木元右衛門が貯木場を作ったのですが，北側が本府で，札幌の最初の地割を作ったわけです。本府の南側には，明治3年に東本願寺が既に入ってきておりました。東本願寺の勢力が強かった北陸から沢山の農民を連れてきて，この周辺に辛未一の村を開設しました。今の中島公園の付近に40～50軒建っていたということになります。

これは農民の移住ですので，住居はササやススキなどの草葺きなどで造っておりますので，一度火がつくと大火事になってしまいます。大通が火防線だったように，当時は茅屋（ぼうおく）といっておりましたが，こういったものがあると町が危険だということです。このような草葺き屋根を建て替えさせるために，岩村が茅屋を焼き払ってしまったのです。これを御用火事と言いますけれども，そのため辛未一の村の農民達はここを追い出されてしまい，散り散りになって琴似の方へ移り，或る所に八軒，或る所に十二軒（現在の宮の森），また或る所に二十四軒と移っていったわけです。

明治6年の地図を見ると，本府の北側に日本で最初の公園と呼ばれる偕楽園を，この年に岩村が造っております。この時既に岩村の頭の中には，北海道神宮の周辺（円山公園），屯田兵村と本府との間の鴨鴨中島（中島公園），もう一つは苗穂のあたり（当時御料地果樹園）にも計画がありましたが，苗穂の方は実現しなかったのです。

この時期に，開拓史の顧問であるホーレス・ケプロンが，たくさんのお雇い外国人を連れて来ました。その中でも牧畜の技術を伝えたエドウィン・ダンと，作物・園芸・造園で力を発揮したルイス・ベーマー，この二人が札幌にも深く足跡を残しております。明治19年（1889年）に中島遊園地の建設を始めますが，翌年（明治20年），当時道庁の北にあった競馬場を中島に移設致したのもダンの手によるものです。

北海道には全国各地から入植して来たわけですが，久留米から来た人の手で造られたのが水天宮です（現在地には明治21年(1888年)に社殿建立）。その頃には，越後から来た岡田左助が，池と水をうまく使った遊園である岡田花園を造っております。これは明治42年に新渡戸稲造夫妻が来札した時に（当時帝国大学になっておりますが），ｇｈ宮部金吾ら札幌農学校の同級生たちが集まって写真を写しておりますが，実はこれが「岡田山」で，岡田花園にあった築山です。これが今では上に天文台が乗っかっていて，こんなに高い山だったのかとビックリしておりますが，どうも天文台を建てる時に頭を少し低くしたようです。

（「写真集 北大百年」北海道大学，1976）

それから今の札幌パークホテルの所に西の宮という大きな料亭がありました。当時の写真をみると，こんなにてんこ盛りになった大きな築山があったことは意外でした。このような遊園の場所として中島公園は盛んに利用されていたわけです。

それから，西南の役に出兵した屯田兵の戦死者を弔う屯田兵招魂碑が偕楽園にありましたが，明治40年（1907年），中島に移設されて札幌招魂社となり，後に札幌護国神社となります。

最初の区切りである明治43年に，当時の札幌區が，東京市の造園技師（長）であった長岡安平に円山と中島の造園計画を，大通逍遥地には植栽設計を依頼して，3つ共図面を描いておりますけれども，その時の現況図というものが残っております。これを見るとまだ競馬場があり，馬場が鴨々川を2回渡っておりますので，これが現在の白鶴橋と南14条橋になるのではと推測しています。このほか岡田花園や現在の菖蒲池，それからここに官有地と書いてありますけれども，道有地が当時からここにあるわけですね，ここは今でも道有地であり，北海道立文学館が建っております。長岡はこうした図面を残しておりますが，そういう歴史が当時から始まっていたこと

がこの図面からも判ります。これを基に整備を始めたというのが明治43年ということになり，それから100年になるわけです。次の年にこれも越後から持ってきた彌彦神社が建立されております。

大正7年には開道50周年北海道博覧会というものが開かれております。中島公園を中心に会場は3箇所(駅前通に鉱業館，小樽に水族館)あるわけですけれども，中島公園がメイン会場となったわけです。この年には，開拓初期の札幌建設に尽力した4人（水原寅蔵・大岡助右衛門・石川正叟・対馬嘉三郎）の功績を記念して四翁表功碑が建てられております。

この博覧会というものが素晴らしく，当時の若手の第一人者の中條精一郎（1868～1936）という建築家の設計による迎賓館などが中島に建てられたわけです。これが中島の大きな転換点となりました。いわゆる，総合公園の形になってきた訳です。

（「札幌歴史写真集(大正編)」札幌市教育委員会編，北海道新聞社，1983）

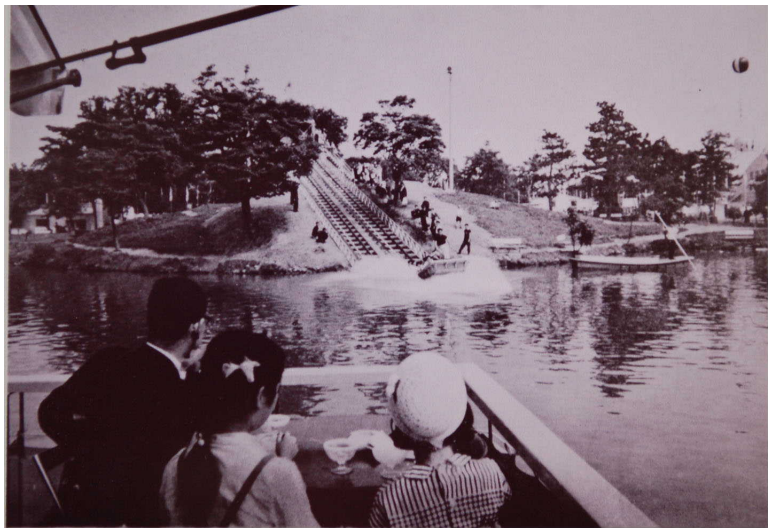
大正10年には，木下弥八郎顕彰碑が南10条西2丁目に建てられています。今では札幌パークホテルの前の道路分離帯にありますけれども，わずか数十㎡しかない札幌で一番小さな町で不思議（とても狭い）な空間となっておりますが，この場所に木下家があったとのことです。木下は幕末に非常に活躍した人で，その息子の木下成太郎の像（碑）もこの公園の中に建っており，非常に大きな存在感があります。この銅像は大変立派なもので，昭和16年に建立され，公園の中のあまり人に知られていない場所にあります。

昭和3年にはNHK札幌放送局が出来て，ここから道内最初のラジオ放送が始まりました。本会場である北海道文学館のすぐ隣に記念碑が建っていて，ここが放送局跡になっております。

鴨々川の名前の由来ではないかとされていた料亭鴨川は，昭和4年（1929年）に鴨々川縁に出来て，昭和16年（1941年），紀元2000年を記念して碑を造りました。今ここには，不老の松と碑と燈籠だけが残されております。

（札幌市文化資料室所蔵写真）

これは昭和30年頃の航空写真ですが，公園はこのように中島球場や中島スポーツセンター，池，この当時はまだ豊平館が移設されておりませんでしたが，岡田花園の名残が残っているようです。この時にはまだ日本庭園は出来てはいないという貴重な航空写真ですけれども，このすぐあとの昭和32年（1957年）に，大通にあった豊平館が移設されます。昭和33年（1958年）には北海道大博覧会が水を中心として，水と緑，藻岩を望む風景や優れた景観の中で開催され，非常に賑やかであったのです。



（札幌市文化資料室所蔵写真）

当時園内にはウォータースライダーがあり，私くらいの年齢の人は結構乗ったことがあるとのことでした。船頭さんというのか係員が，船の舳先に立ち乗りをしているのが格好よかったとおっしゃっておりましたけれども，こういった素晴らしい施設も中島にはあったのです。

公園の横には，当時はホテル三愛ですけれども（現在の札幌パークホテル），庭園を造成するに

当たり，藻岩山を借景にして菖蒲池の水面と連動した最高の滝を造るために，私の恩師である故明道博先生（北大）を中心に設計されております（昭和 40 年)。今では樹木が鬱蒼として当時の雰囲気がなくなってしまいましたが，こういった庭園も隣接しております。昭和 46 年（1971 年）には豊平館と並ぶ重要文化財である「八窓庵」が，日本庭園の中に移設されております。

(1993. 7. 3　中島公園内噴水広場)

これは約 20 年前に私が写した写真ですけれども，当時はそれほどマンションも高くなくて空が綺麗に広がり，百花園といわれた花壇の噴水の中に山内壮夫（やまのうちたけお）（1907～1975）の彫刻「森の歌」がありました。そのように総合公園としては大変厚みもあり，札幌で生まれ育った人にとっては四季折々，池で遊んだり，サーカスに行ったり，イベントに参加したり，そういった思い出深い場所であったのです。

中島公園は，こうした歴史の厚みと文化的資産というものが重層的に積み重なっている場所であり，歴史の名残が園内各所にみられるというのが，私は中島公園で一番面白いところだと思います。しかし，こうしたものが積み重なり過ぎて，前後関係が分かりにくいのではないかとも感じながら最近，中島公園に関わってきております。

今，中島公園管理事務所のお手伝いをしながら，様々な施設や植物などの由来等がもっと分りやすい資料を作るために「中島公園三十三選」というもの選定してみて，これを基にリーフレットのようなものを作ってみたいと思っています。この公園の周辺にはホテルやマンションもいっぱいありますので，公園を訪れる人も多いわけですから，その由来とかを分りやすく説明することが必要なのではないか。そこで今回，「中島公園三十三選」選定プロジェクトというものを立ち上げて，皆さんの意見をお聞きしながらまとめていきたいと考えております。中島公園の歴史を軸に，本公園の魅力などのお話をいたしました。

(Co 小林)

有難うございました。笠さんの方から中島公園の有する歴史的，文化的資産についてお話を頂戴いたしました。

(2)パネルディスカッション 10:30～12:00

パネルディスカッション

【パネリスト】	橋本　信夫	札幌彫刻美術友の会会長
	石川　博司	中島公園ガイド「中島パフェ」制作管理者
【コメンテーター】	笠　康三郎	(社)日本造園学会北海道支部副支部長
【コーディネーター】	小林　昭裕	専修大学北海道短期大学教授

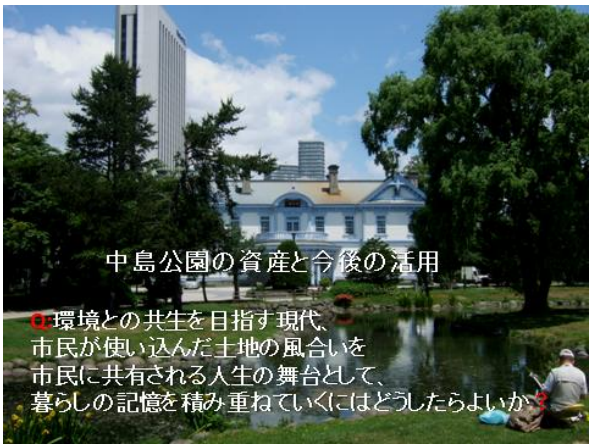
(Co 小林)：引き続きましてこれからパネルディスカッションに移らせていただきたいと存じます。お一人目は札幌彫刻美術友の会会長でいらっしゃいます，橋本信夫さんです。宜しくお願い致します。もう一方は中島公園ガイド，ホームページ「中島パフェ」の製作責任者でいらっしゃいます石川博司さんです。宜しくお願い致します。

(Co 小林)

これからパネルディスカッションをはじめたいと思います。今から始めて，90 分くらいを予定しています。先程ご紹介致しましたとおり，お二人のパネリストにお話を伺い，只今，中島公園の説明をして頂いた笠さんにはコメンテーターとして参加をお願い致します。私（Co 小林）はコーディネーターとしてシンポジウムを進めさせて頂きます。

まず，全般の狙いを簡単に私の方からご説明させて頂いて，橋本さん，石川さんには 15 分程度話題提供をお伺いして，それから質疑応答を行い，最後に笠さんからコメントをお願いして，私が纏めさせて頂きます。

只今，笠さんのお話にありましたように，中島公園というのはいろんな顔を持っている，札幌市民の公園といえます。この中島が遊園地であった時代，札幌市民から「ここを市民の遊園地にして欲しい」という声があがりました。その後，今日に至るまで，いろんな形で市民に使い込まれた場所なのです。スクリーンに豊平館が写っていますが，かつては賓客への迎賓のための洋風ホテルとして使用され，大通から中島公園に移設されてからは結婚式場として利用され，人生の門出の場所として使われています。また，歴史の本を紐解くと，中島公園のできことを記載した書物が多くあります。例えば中島公園（札幌文庫）があります。これを読みますと，執筆された方々がいろんな想いをこめて中島公園へ思いを綴っておられます。中島公園の顔というのは人によっていろんな受け止め方をされており，利用者の心模様によって様々な景色となって現れてくるということが分りました。



今日，これからお二方のパネリストにお話をお伺いするわけですけれども，中島公園三十三選の選定作業が進められていますので，例えばどういったものが中島公園の中で歴史を引き継いでいく資産になるのかというようなことも念頭に置きながら，そして中島公園の施設配置や形態が移り変わってきていますので，その中で移り変わりがないもの(不易)と，移り変わっ

てきているもの(流行)とがあって，このことを踏まえ，次の世代に引き継いでいくべきものを想定する必要があります。

そして，ハードとソフトに関することですが，ただモノがあるだけではなくて，そこに言葉があったり，名前がついたり，由来があったりして，それらが積み重なってきている。先程，笠さんがおっしゃったように，この中島公園には歴史的或いは文化的資産が，積み重なってきているので，それを解きほぐしていく中で，当然其処にはモノだけではなくてそれに関わるストーリーも付随していると思いますが，そのあたりを今回のシンポジウムを通して，皆さんに考えて頂くきっかけになればと願いを込め，今回のシンポジウムを始めたいと思います。

それでは話題提供へ移らしていただきます。最初に，橋本さん宜しくお願いいたします。

（橋本）：　最初に札幌彫刻美術館友の会の橋本でございます。

私は学生の頃札幌に住むようになりまして 60 年ぐらいになります。10 年位前に中島公園に移って参りまして，この文学館を毎日眺めながら生活をしております。私は 10 年間この中島公園の中，それから周辺を毎日のように見続けて参りました。楽しいことも見て参りましたが，都市の中の公園としては，世界的にもこれだけの内容を持った所は無いように思います。そういった中で，今日，私ども札幌彫刻美術友の会は，これまで長く彫刻のデータを集めたり検討したりといった活動を続けてまいりました。

最初に，簡単に「友の会」のご紹介をさせて頂きますと，私たちは彫刻を鑑賞するという立場の中でいろいろの活動をしておりまして，「出来る人が，出来ることを，出来る時に好きなだけ。」というスタンスで，例えば公園内の文化財の清掃をするとか，保全するというように心掛けております。会の会員は 180 人，年会費が 2,000 円で事業の内容としては彫刻の実態調査，地図を作ったり，或いはガイドをしたり清掃作業や保全を行っております。一方で，講演会やシンポジウムを開催したり旅行会を計画したりしております。更には PR として会報も作ったり，ホームページで事業を公開したりしております。出来るだけ彫刻に纏わるいろんな情報を発信していき，その中の一番大事なことが公園の中の彫刻群の清掃です。そういった関係で今年，図らずも札幌の環境賞特別賞というのを頂きました。

（市内彫刻分布地図と航空写真を示す）札幌市内の彫刻の分布を見ますと，またこれは札幌市中央区の航空写真ですけれども，大通公園それから札幌駅前から中島公園ですが，札幌市内の彫刻といいますのは大通公園を

中心に東西に分布しております。それから札幌駅から中島公園までの縦軸，この中にかなりのものが集まってきております。特に札幌駅から中島公園に掛けての楕円の中では，どういうものがどのように分布しているかが，我々の興味の対象となっております。（次の地図を示す）これでは菖蒲池を挟んだ地下鉄の辺り，菖蒲池の東側周辺に彫刻があります。代表的なものとして山内壮夫の彫刻「森の歌」，先程，笠さんからのお話の中にも出ておりましたが，以前は池の中に噴水に囲まれた中にあったもので，石膏像が移築されて今の所に有るわけです。

野外彫刻の分布　札幌市中央区

続いて「のびゆく子ら」，隣（Kitara の方角）の方に四翁の「表功碑」，安田侃の「相響」，更に東の方に行きますと先程の「木下成太郎像」の威容をもった銅像が建立されております。浅倉文夫の戦前の貴重な作品です。この木下成太郎の父親，木下弥八郎の顕彰碑というのが南 10 条西 2 丁目の非常に狭い所にあります。普通，住所は広く幅の或る地区なのですが，此処だけは非常に狭い中の地番になっております。この木下成太郎を中心とした過去，郷土史に関わる非常に大事なものがたっぷり含まれている場所です。

野外彫刻の分布　中島公園

また，自由広場に行きますと山内壮夫の「笛を吹く少女」，「鶴の舞」それから「猫とハーモニカ」，それから「母と子の像」があって，何れもセメントで作られております。

既に 50 年も経っていて，非常に風化した状態です。50 年も過ぎたセメント像というものは，何れ劣化し壊れて行く運命を背負っている訳ですが，山内壮夫というと，札幌で活躍し，東京で大きく成功した方で，この方の作品を何とか綺麗に保全したい思いで，清掃作業を継続しております。こうした中で，いまから 5 年ほど前になりますか，心無い者に横倒しにされて，ここで花火を打ち上げられると言う事件が起こりました。このことによって顔がひどく汚されてしまいました。山内壮夫の立派な作品が無残な姿になってしまったことに地元の会員，此処に居られる石川さんが

彫刻の清掃　《母と子の像》　山内壮夫　中島公園　2007

中心になられまして「清掃しようじゃないか！」という気運が起こり，中島公園の周辺の人たちをお誘いしてこの文学館で彫刻を清掃する会，或いは園内の彫刻を調べるという最初の会議を持ちました。その時に，ここは道立の文学館ですから，部屋を無料で貸してくれるようにお願いをしました。返事は，「文学を目的として使用するのではなく彫刻友の会が彫刻の清掃を目的として使用することへの許可は難しいよ。」と言われ「名前を変えればOKする・・。」と言うことでした。そこで「中島公園モニュメント研究会」としてお届けしまして，何とか部屋を借りられました。この無料の部屋があることによって，年に何回か仲間が集まって，この彫刻をどう清掃し保全するかについて会合を持ち，今年で5回，6年目を迎えております。こうして夏になると年に2～3 回彫刻の清掃を続けております。このメンバーの中に体の不自由な方がおられまして，普段こうした方は家族や仲間の方から世話を受けておられるわけで，自分から積極的に何かお世話をしてあげられる機会が殆ど無かったけれど，こういう場で，直接彫刻の雑巾掛けをするという機会がなかったのですが，汚かった彫刻を雑巾掛けすることによって非常に綺麗になったことに感激しておりました。それを見ていた周りの人たちも思わず感動し，家族或いは周りの人たちと直接触れて清掃するということは，広く大きな意味を持っているのではないだろうか？と感じ始めておりました。こうして会を重ねる中で参加者も増えて参りました。今では公園周辺のホテル，札幌パークホテルや北ホテル，或いはKitaraや中島スポーツセンターもそうですし，シアターZOOからも人が来るなど，いつの間にか草の根だけではなく企業や施設の方々まで参加し，皆いっしょになって清掃をするということをやるようになりました。こうしたことから，直接モノに触れる，これは何（素材）で出来ているのだろうか？とか，或いは彫刻を綺麗にしたことによって気持ちが安らいでくるとおっしゃいます。

このためこうした作業を頻繁に，しかも長く継続していくことがとても大切になりました。こうした活動に参加する人たちが顔見知りになったり親睦を深めていったりする機会を得たりして，企業なども参加することによって公園を取り巻く地域全体が「公園を何とかしたい」という気運を育んでいければ喜ばしいのではないでしょうか。さて，野外彫刻というものはどういう素材かと言いますと，金属とか石とか色々なものがあります。特にブロンズ（銅）で出来ているものは数千年の耐久性がありますし，花崗岩のようなものも耐久性に富んでおります。しかし，セメントや石膏は寿命がどんどん下がり劣化が早いのです。その中でブロンズ像がどんどん作られていくということは千年，二千年の歴史をそこに残していくということですから，この材質が選ばれております。作品が芸術的なもの，歴史的なものですと，我々は子孫に二千年，三千年と出来事を伝えて行かなければなりません。そこで我々はこの芸術品を如何に伝えて行かなければならないのか，相応しい管理の仕方や保存の方法など

野外彫刻の素材と耐久性

分類	素材	耐久性
金属	鉄 銅 ブロンズ ステンレス アルミニューム	数十年 数千年 数千年 数百年 数十年
石	大理石 花崗岩	数百年 数千年
セメント		数十年
石膏		数十年
テラコッタ		数百年
プラスチック	ポリスチレン	数十年
木材		数十年

を考えていかなければなりません。そうすると，それに相応しい保存の仕方，寿命の短いものはどうすればよいか，伝えて行く方法の検討を重ねなければなりません。「寿命の短いものはどう取り扱っていくか？」などは経験と方向付けが必要になってくる。私たちの活動は主にこの中島公園の耐久文化財の清掃・保全という活動を主に行っておりますが，パブリック・アートとしての彫刻を美術品として観察し資料を全部集めてきて，野外彫刻というのは屋根の無い美術館のコレクションであり，全部の情報をパソコンの中で管理しようとしております。これは建物を建てなくても美術館としての情報を管理できるという性格を作ることが出来ると考えているからです。野外彫刻に直接触れ，素材が何で出来ているのか手の感触から好奇心が生まれてくるし，製作の方法も分ってくる。そうすると次に，この作品の作家とはどのような方だったのか？どういう動機でこの作品を作っていったのだろうかとか，芸術への関心がどんどん高まってくる。そうすると芸術家の大事な作品が其処に置かれていて，これをよく理解するという鑑賞の手掛かりとして彫刻が存在します。そして比較しながら自分なりのアートへの認識を高めていくために直接手で触れ，或いは鑑賞の手掛かりを自分なりに発見し体得していく。先程の木下成太郎の銅像が作られた大正の郷土史に書かれていることは大事な記録である。大事であればある程，次の時代に伝えて行かなければならない。更にこれらは芸術品であり，文化遺産であります。これは当然，子孫への贈り物であり，我々も心して大事にしていかなければなりません。そうであれば，それに合った清掃方法を考え出さなければならないし，経験をしなくてはなりません。更に，保全や劣化を防ぐ方法を考え，或いは我々も千年後までどうしてやれるだろうかとか，色々なことを考えて行かなければなりません。

こうしたものは１回清掃しただけで済むものではなくて，絶えず毎年，誰かが関わっていく必要があります。家族ぐるみ，或いは会社ぐるみ，或いはコミュニティーが関わって行くということが大事です。特に家族ぐるみの参加というのは大事で，孫におじいちゃん，おばあちゃんが，これはコレコレだから大事にしましょうね。と，教えてあげて経験の体系を作ってあげることもとても必要なことです。

汚れや破損，劣化の状況をよく知った上で，どうしたら良いかということを皆で考えて行き，その時に家族や企業も加わるようにする，地域住民，企業の参加，そこから大きなチャンスが生まれ，町おこしのきっかけにもなるわけです。

パブリック・アートというセンスで都市景観と如何に調和を図るか，これは本日のランドスケープシンポジウムの大きな目的の一つでもあると思います。

我々友の会としては中島公園のデジタル彫刻美術館の書き込みの中で，いろいろな情報を交換し合い，いつでも，誰でも利用できる仕組みの中でボランティアとして行っているので殆ど費用が掛かりません。しかし効果は非常に大きいのです。

ニューヨーク市　セントラルパーク

（セントラルパークの航空写真を示す）これはニューヨークのマンハッタン島，セントラルパークを北方向から南方向を写した１枚ですけれども，この公園も中島公園も共に街中の都市公園としては一級品だと思います。セントラルパークは非常にサイズが大きく（広く）幅が400m，長さが900ｍもあって，全部を歩くと10㎞になります。非常に巨大なものです。この公園の中にはメトロポリタンアート・ミュージアムとか，ナショナル・ミュージアムや国立科学博物館などがあります。ここには動物園などがあります。この公園の中には様々な小さな施設があって，空間があって，夏冬共に沢山の人が集まって参ります。その数はニューヨークの人口の倍，2千500万人の人が出入りしているそうです。札幌の人口を200万人とすると400万人の人の出入りが中島公園で起きていると考えられますが，果たして現在の中島公園がこれ程の人を動員出来ているかというと，かなり違いがありますし，では原因は何処にあるのかというと，セントラルパーク周辺に住むことはステイタスになっていて，地価や家賃も非常に高額なのです。しかし，公園を利用できることは住民にとって非常に有り難いことなのです。

（次の写真を示す）チョット焦点が会っておりませんがこれはマンハッタンの昼間の写真ですけれども，この情景は中島公園の自由広場とそっくりです。しかし，人の数や利用のされ方で大きく違っております。次の写真は周辺の住宅地ですが，札幌と比較しても緑の量が多くて驚きます。狭い通りでも緑の量の多さに圧倒されます。ものすごい都市化が進んでおりますから緑が少ないのではと思いがちですが，公園だけに留まらず周辺も圧倒的緑ですから街自体，都市の景観が違い，圧倒されてしまいました。

私たちは中島公園の色々なものを利用しながら文化的施設の恩恵を享受したいと思っております。中島公園文化というものを表現できるようにしたい，ヨーロッパやセントラルパークに劣らないだけの背景を持っているのですから。これを行政だとか何とか言わず，むしろ住んでいる人たちの手で「市民文化は市民の手で守ろう，街中の美を守ろう」を我々のモットーとしております。そしてこういうものを公園の中で実現する，体験していき，次に目指すものを考えて行きたいと考えております。

今，（彫刻の）戸籍などを調べておりますが，こういうものを札幌市や関係機関といっしょになって作り上げて行きたいものです。そうすると公園の中にある施設や樹木，カフェなど，総合的なガイドが出来る方を多く育てて行きたい。何百人でも何千人でも多くのガイドを育てて行きたい。公園に誰かが訪れた時にすぐに案内できる体制を執りたいと考えております。そういった意味では「中島公園三十三選」などは手掛かりとして必要になってまいります。中島公園文化の発信ということでこれから石川さんがお話になるわけですが，ホームページを使った地域文化の発信に対して出来るだけ大勢の人たちが関心をもって貰う，地域住民の皆さんが関わって貰う会議を作って行きたいのです。

園内，周辺の会社或いはKitaraや色々な施設や市民が積極的に話し合える環境を整えて行きたい。観光事業，スポーツ，芸術文化或いは地域経済などや，どの領域とも連帯意識の中で中島公園の価値というものをもう少し前に出せるのではないでしょうか。

我々は清掃や劣化対策をやっておりますが，その対策も深刻な問題として捉えていて，草の根の運動で，皆さん素人でありますので専門家や協議会のようなものを交えて，新しい展望をしていく必要が起こってくると考えます。

それと公園施設の充実が必要です。周辺でもよいのですが博物館や美術館，劇場など，世界に誇れる施設を充実して行きたいものです。例えば札幌には美術館はあるけれども博物館がない。劇場らしい劇場もない。そうであるなら中島公園の一角にこうした施設を誘致できても，なんら不思議ではない。国際文化都市札幌，200 万人口の文化的大都市を代表し，北海道を代表する中島公園，国際都市の風格を備えた都市に持ち上げて行く。これが中島公園の文化の方向であると，我々は考えております。以上でございます。

(Co 小林)

今，橋本さんの方から，非常に詳しいご提案を頂きました。

文化の発信ということでは，石川さんの方からより具体的な提案があると思いますので石川さん宜しくお願い致します。

(石川)

石川博司と申します。「中島パフェ」というホームページを運営（主宰）しております。

中島公園パーフェクトガイド，略して「中島パフェ」を運営しております。整理して分りやすいホームページ（以下，HP という。）を目指して現在，リニューアル中です。

これがリニューアル前の HP で，8 月 7 日に更新しておりますが，当分の間，クリックして新しいサイトに切り替わるようにしております。

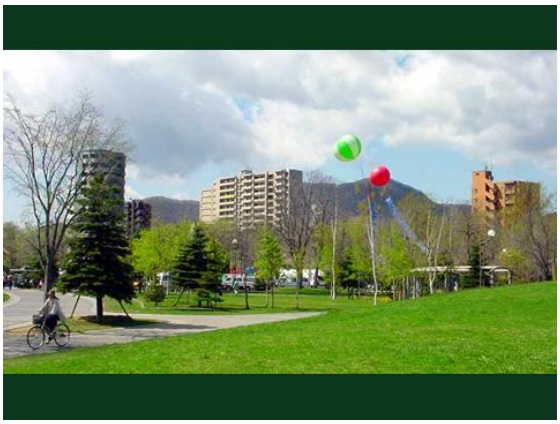
10 年前に厚別区（札幌市）の 1 戸建ての住宅を処分して，中島公園傍のマンションに引っ越

してきました。

サイトの目的は「中島公園を良好な状態に維持して，次世代に引き継ぐこと」ですが当面の課題は中島公園の魅力を出来るだけ多くの人に伝えて知名度を上げたいというものです。中島公園の近所に転居して，地域に溶け込もうとして地域のボランティア活動に参加したりしたのですが，知らない人ばかりの中で，右往左往するばかりでした。そこで，自己紹介代わりにHPを開設しました。いっしょに活動する人には私がどういう人間か知って貰うことが先決と考えました。これがきっかけで，地元のラジオ，「山鼻明日もいい天気」，今でも放送しておりますが，そちらにも参加しております。

「継続は力なり」といいますが，長続きさせるには“真面目半分，面白半分”が調度いいと思っております。真面目でなければやる意味が無いし，面白くなければ続かないです。

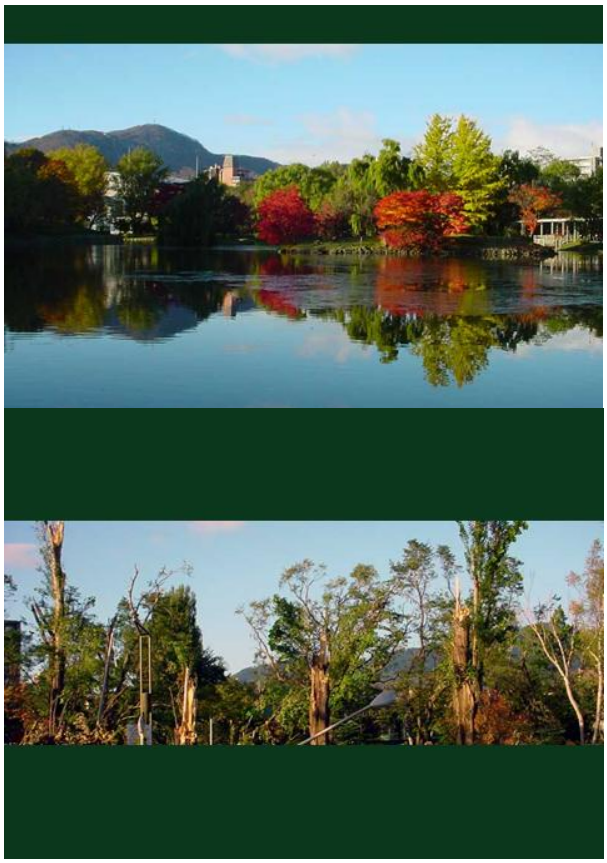
こんな感じでどこかで，HP中島パフェと同名の美味しいパフェを作ってくれないかなあと，HPで呼びかけたところ，ありました。願い叶って作って貰ったのが 2009 年夏，ノボテル札幌「カフェセゾン」で美味しい中島パフェを作ってもらうことが出来ました。20011年春までの2年間，春夏秋冬8種類のパフェを季節が移るごとに作って下さいました。



中島公園には問題点は色々ありますけれども，一番気になっているものは公園の景観です。ビルが建って，藻岩山がだんだん見えなくなっています。もちろん始めから問題意識を持っていたわけではなくて，HPを開設し，更新を重ねるうちにこの問題点に気付いたのです。今言うのもなんですが，写真の真ん中にある一番大きなマンションには今，私が住んでおります（笑）。

（次に）24年前の中島公園の写真です。ほぼ同じ方向から藻岩山を観ているのですが，現在との違いがはっきりと分ります。

次の件については橋本先生から詳しくお話があったので省略いたしますが，一番右下の写真が「猫とハーモニカ」です。この耳が壊れた



のです。「猫とハーモニカ」の耳は，この悪戯事件のかなり以前から損傷しておりましたので，耳がちゃんとある写真は，今となっては大変貴重（この写真一枚くらい）です。札幌市文化資料室からお借りしてきました。都市化の波に晒されている中島公園は人によって癒され方も違います。山が一番美しく見えるが仰角 8 度だそうです，中島公園はまさにその位置に在ります。菖蒲池越しに見える藻岩山，絶景ですが都市化が進み，ビルの陰に隠れてしまいそうです。何とかこの景観を守りたいと思っております。この写真は9年前のものです。現在と違って木や林がこんもりとしておりますが，これは台風の前だからです。次の写真が2004年9月8日，台風後のものです。台風 18 号が中島公園を襲いました。この写真は地下鉄南北線「幌平橋」近くのポプラ並木ですが無残な姿になってしまいました。倒壊して景観が一遍に変わってしまいました。その他にも公園内にある多く木が倒れました。以前，中島公園で探鳥会をやったことがあるのですが「中島公園はあまり鳥が居ないよ。」という話だったのですが，結構おりまして，当日だけでも 17 種類も観ることができました。野鳥を見る会もやりました。野鳥に詳しい人の話ではもっと木が欲しいと言うのです。木が多いと野鳥に隠れる場所ができて住み易くなると言うのです。私は充分あると思ったのですが，木はもう少しあった方がいいようです。

2009 年 4 月に豊平館前の池が干上がってしまったときの写真です。

水が無くなれば魚が生きていけません。春から秋に掛けてはこのように池の様子が見えるから，水が無くなったのが見えるのですが冬になると深刻です。凍結しても氷の下では水が流れ，生き物に必要な酸素が供給され，コイなども生きているのです。しかし表面に氷が張り，その上に雪が積もってはその氷の下がどうなっているのか分りません。池のコイには冬でも酸素が必要です。氷の下では豊平川から引き込む水の流れで命を保っております。

私の運営する HP 中島パフェは中島公園に根ざしたサイトにしたいと思っております。コンテンツを充実させるために，中島公園で開催されるイベントにはできるだけ参加して，協力して活動する中で取材するようにしています。

次は 10 月上旬に開催される“Kitara クイズウォーク・ラリー”はKitaraの主催で開かれておりますが楽しいイベントです。今年は札幌彫刻美術友の会がウォーク・ラリーに合流することになりました（内容は長いので省略いたします。）。

このように中島公園のイベントには積極的に参加してお手伝いをするようにしております。参加して理解を得ることがHP運営に役に立つと考えておりますが，大した働きはしておりません。

次に“雪あかり中島公園”，毎年 2 月に開かれておりますが，私が所属する札幌彫刻美術友の会では今年始めて協力いたしました。受け持ちは「のびゆく子等」という彫刻の傍に設置された“明かりと願いのターミナル”で，これは紙コップのランタンに願いごとを書いて，彫刻の回りに灯すというイベントでした。

次に彫刻クイズラリーは今年の 7 月 30 日，これも初めてのイベントですけれども，これも彫刻友の会の主催でした。私も会員として参加しました。小学生以下を対象に彫刻に親しんで貰おうという趣旨のイベントでした。中島公園は水と緑の公園ですが，一方で芸術と歴史の公園を目指して着々と整備が進められています。彫刻クイズラリーは中島公園にとってもタイムリーな企画であると思いました。このイベントがきっかけでウォーク・ラリーの時に“中島公園今と昔”のページを作ることにしました。

全国的に見て札幌は人気の高い都市です。しかし中島公園の人気は今ひとつです。9 月 29 日の北海道新聞に載っていたのですが，“観光客に聞いた，都心で行きたい観光スポット”の第１位は大通公園，次は中島公園か?と思ったのですが，まったく見当たりません。因みに２位はラーメン横丁，以下，時計台，二条市場，道庁赤レンガと続きます。これ以下については書いてないのです。では都心だけではなくて市周辺ではどうかと探してみましたが其処にも無かったのです。やはり中島公園の魅力は分り難く重層的ですね。歴史が積み重なり過ぎて充分使っていないのかもしれない。国指定の重要文化財「豊平館」とか「八窓庵」，それに夫々の時代を反映した（先程からの説明の通り）木下成太郎先生像，森の歌，相響などの彫刻は，夫々の時代を代表したものだと思っております。それで３つ挙げました。それと藻岩山を望む中島そのもの，これが正当に評価されれば，世間の見方も変わると思われます。

HP中島パフェを運営しておりますと，個人的には，何時大きく見直されるか分らない，そんな期待と楽しみが一杯な公園で，これからの読みしろがいっぱいあると思っています。

サイト閲覧の反応についは意見よりも励ましが多かったのです。殆どが知人などからのものですが，印象深かったのは北海道新聞の取材を受けたことです。翌日の朝刊に「中島公園の魅力満載，ホームページ　コツコツ発信５周年」という見出しで写真付きで載せてもらいました。それに続いてコラム「朝の食卓」にホームページ「中島パフェ」運営者として２年間に渡り執筆させて貰いました。

これは道新でも中島公園を大切に思っているという証でしょう。とても嬉しく感じております。HP中島パフェ頑張れと励ましてくれたものと勝手に思い，元来文章を書くのが苦手なもので

すから，そう思いました。

次にHPの訪問者の地域別集計についてです。数値的なアクセス回数はGoogleを利用しております。リニューアル中なので数値としては低いのですが，都市別の数値が見られるので面白いです。札幌がダントツなのは分るのですが，2 番目に多いのが東京都渋谷区なのです。それに新宿区，港区・・・と続きます。東京，大阪，名古屋は分りますが，小山市などは知らない人もおりますよね。考えたら此処には私のメル友がおりました。更に意外だったのは10番目に香港が入っていたのです。HPは世界に発信！などと言われていますが，これを見るまで信じられませんでした。以下は台湾，中国，韓国，オーストラリア，アメリカ，インドネシアですね，そういうのがパラパラっと入っておりました。

一つの証としては，去年ですと「中島パフェ」何時も見ていますよ!と言ってオーストラリアから逢いに来てくれた方がいるのです。この人は元々20歳頃まで山鼻に住んでいた人で，20年以上向こうで暮らしていて，お子さんといらして，中島公園をいっしょに散歩しました。これも楽しい想い出になっています。このようにアクセス回数を調べてみて中島公園をＰＲする手掛かりを掴んだような気がしております。

HPを開設当初と今とどう変わったかというと，公園管理者が昨年4月に交代しました。現在は友好的にリンクしてくれて大変有り難く思っております。

ところで，8年前の開設当時と今と大きく違う点は文学館や関連施設のサイトが充実してきたことです。どういう面で充実したかというと，行事やスケジュールがどのHPからも得られるようになったことです。そうすると，此れがあります，あれがありますと書くのはお節介なような気がします。「中島パフェ」は各施設の情報は施設に委ね，重複を避けるように編集し直しました。そこで余った労力は中島公園の歴史について掘り下げる記事を中心にしたいと考えています。そのため札幌市文化資料室のご協力を頂いて「中島公園今と昔」のページを新設しました。今後，このページのサブページをどんどん増やして行きたいと考えております。

先程，笠先生のお話を聞くと，こちらの知らないお話がいっぱいあって，色々勉強しなければならないと思います。何分にも古い中島公園については，10年前に中島に来たので体験が乏しいのです。山鼻新住民ですから。最終的には地元に長く住んでいる方から体験談などをお聞きしたいと思っております。微力ではありますが，いろいろと工夫して興味を持って読んで貰える「中島パフェ」にすることを目指しています。HPを運営する目的は中島公園を良好な状態に維持して次世代に引き継ぐことですが，その第一歩として中島公園の魅力を出来るだけ多くの人に伝えたい。その柱を中島公園の歴史としたいと考えています。宜しくお願いします。

(Co 小林)

それでは会場からご意見を伺いたいと思いますが，意見，質問のある方は遠慮なく挙手なさって下さい。

(会場：長嶺)

私は橋本会長といっしょに活動しております。このエリアに住んでいて彫刻美術友の会で活動しております。先生からもお話を伺いました。私は毎年春と秋に彫刻清掃をしておりましてその関係からチョット感じたことを申し上げたいと思います。中島公園には14のモニュメントがあり

ます。清掃をさせて頂いていて山内壮夫のセメントの彫刻が４基ありますが，この作品を中心に石川さんのご紹介にもありましたように，今年初めて子供向けのイベントをさせて頂きました。たった４点の作品で，私たちは子どもたちの心を取り入れようかと，色々検討させて頂いたのですが，初めての経験で充分なことは出来なかったと思うのですが，感じましたのは，あの場所は非常に広い芝生の広場になっております。ただ芝生になっていて，その回りに 4 点が整然とあるわけではなくて，私達が色々工夫しても（やることは）ある程度限られているのではないか，折角ある芝生の周りにもっと子ども向けの彫刻があったらよいのではないか？と感じております。特に野外彫刻は私たちも力を入れていることなのですが，触れることによって楽しくまた彫刻を知るというようなことが大事だと認識しておりますので，もっと子ども達に触れて貰いたい。あの４点の彫刻だけでも子ども達は非常に遊んでくれます。座ったり，触ったり，撫でたり，そういう作品がもう少しあって，その中の芝生で子ども達がコロコロ転がって，この芝生広場でもっと自由に飛びって欲しい，そういう空間であって欲しいということを思っております。

《笛を吹く少女》
山内壮夫
1959

もう一つ，私は鴨々川清掃にも関わって 10 年になります。今年も彫刻友の会とも清掃するようになりましたけれども，殆ど別の形でやっておりまして，その時感じることは他にも色々なイベントがありながら全く連携が無い，しかも実施している最中に公園の中でありながら知らないという情報不足というのが非常に多いように感じます。そういうことを一体として皆さん連携し合った形で清掃などを行ったらよいと感じました。

（Co 小林）
有難うございました。他にご意見やご質問が有りましたらどうぞ。

（会場：大塚）
いろいろお聞かせいただき有難うございました。前向きなお話で非常に楽しく聞かせて貰いました。もっと問題を感じているところがあるのではないかと思うのですが，そういうものがありましたらもう少しお聞かせ下さい。

（橋本）
問題は非常に沢山ございます。

一つは住民の方が意外に遊びに来られていないということです。此処の良さがまだまだ認知されていないということです。例えば，奥さん達も含めて，芝生の広場では皆さんで集まって好きなことをやれれば良い空間ですけれども，犬を連れてくる方が大半いて，そうすると芝生の上に腰を下ろし，寝転んでどうこうという気分になれない，これは市民に対して犬を連れて来ることはコレコレでいけないという自覚とマナーを守ればよいのですが，犬を遊ばせることを皆が認めてしまっています。ですから都市公園の一番よい利用の仕方がされていない。

欲を言えば，Kitara の前に札響があり何があり，向かい側にはシアターＺＯＯもありで，様々なイベントを受けられるだけの背景があります。例えば，夏に札響の演奏家が芝生や彫刻の前でコンサートをやってくれるといったことも可能性としてはあるでしょう。これは大通公園や何処

でもやれるけれども，中島公園の方が間違いなく，水や緑に囲まれている中，自然の中で市民が寛げるイベントが出来ます。札響やＰＭＦが札幌芸術の森，美術館の奥に鑑賞に行くのもよいが，もっと現実的に都心に近いこの中島公園で，身近で誰もが寝転んだり出来る芝生の中で参加できる可能性があるわけです。このことは札幌市を始めとして関係先に我々が要求していかなければならないわけです。

犬の散歩の問題や鳩やカラスの問題等もありますが，自然の中で，或いはかなりややこしいこともあろうと思われますが，やはりちゃんとした申し入れを行っていかなければならないと考えます。このようにやらなければならないことはまだまだ沢山あるのです。仮に人が年１回，ここを利用することを想定すれば，札幌市の人口の倍の 400 万人を集客でき，これらの問題はかなりクリアされます。

（会場：）

私は石川さんたちと山鼻の新聞や地元のラジオ，「山鼻明日もいい天気」などに関わっておりますが，私も周辺に住んで長いのですが，先程のお話の通り，いい意味ではニューヨークのセントラルパークに似てきたかな，とも思うのですが，裏側では藻岩山が見えなくなってきているという問題があって，例えば円山周辺の方では建物の高さ規制を考えて景観を維持しようという動きがあったのですが，中島公園周辺で場所を区切って，藻岩の方向を望んだ場合を想定した規制が出来ないものかと思います。それが出来れば公園としての価値が向上するのではないでしょうか。そうすればセントラルパークに負けない景観になって行くのではないでしょうか。市民運動では数年先の話とかに成りがちです，しかしながら黙っていると今も，藻岩山の上に変なものが出来ていますが，藻岩の美しい姿を見たいと大勢の人が思っているはずです。そのきっかけがこの会の存在ではないかとチラッと感じました。

それから，笠さんから，中島公園が分り難くなってきたというお話がありました。どういう意味なのかお聞かせいただきたい。

（笠）

私も 40 年前に札幌に来て，仕事柄様々な公園にも関わってきているのですけれども，過去の歴史を調べようにもなかなか分りにくく，さっぽろ文庫を見ても現物となかなかマッチングしにくい。リーフレットなどはあるのですが，過去にあった物事の物語性というものが，まったく分らないのです。そういう面では宝の持ち腐れかなという印象が私にはありました。中島公園は，せっかく魅力が満載にある中で，石川さんがやってこられた情報発信もあるのですけれども，もう少し情報が整理されたものを作りたいという思いが，今回の中島公園三十三選の取り組みとなっております。こうしたものをきっかけとして，もう少し周りのものを見直すことにより，人々の関心を高められるし，新しい情報もそこに集まって来るのではないでしょうか。こうしたことから始めておりますが，その意味で「分りにくさ」があるとお話しました。

（Co 小林）

今回，話題を考える時に最初に頭に浮かんだのは「六義園」（元禄 8 年(1695 年)・五代将軍徳川綱吉より下屋敷として与えられた駒込（武蔵野）の地に柳沢吉保自ら設計・指揮して造成）で

した。なぜ，六義園かと言いますと，和歌の詠われた場所を再現して庭園の中に造り込んできているからです。藤代峠とか渡月橋を入れ込みながら，見立てとして庭園を造っている手法が日本庭園の庭園技法の中にある。これは，一見分り難い庭です。六義園で使われた手法を織り込んでくると，今検討し始めている三十三選ですが，物語とか由緒，謂れを組み合わせて全体をうまくコーディネートできれば，魅力的な公園になれる糸口があるのだろうという気がします。目の前にあるものに，歴史や言葉を付け加えることで、わかりやすくなり，魅力が増すのではないでしょうか。歴史に埋もれているのではなく，寧ろ歴史が積み重なっているからこそ由緒やストーリーを作り易い，それだけの魅力を持っている公園だということを，橋本さんの講演の中にも郷土史が分るような，彫刻一つとっても語れるような公園に仕立てることが中島公園の魅力づくりになり，先程笠さんがおっしゃったように札幌は扇状地であるということを一番分り易く伝えているのも多分，札幌では中島公園であろうと思います。

http://nihon-teien.com/guide/rikugien-gardens/index.php

そういったものを今ではなかなか見る人にうまく伝わっていない所があるので，これを何らかの言葉や或いは「ガイド」ということを橋本さんがおっしゃいましたけれども，ガイドを養成することによって，一見，見ただけではよく分らないものをうまく引き出し，皆さんに伝えるシステム，更に，石川さんがやっていらっしゃるようなHPを使いながら多くの方々に情報発信をすれば，形を変える，すなわち公園を変えるというのではなく，公園の持っている魅力をうまく伝えることが出来れば，中島公園の魅力というのは，少なくても今よりは，多分，良くなっていくだろうな，と，私は感じ，話題を提供させていただきました。

それでは会場からどうぞ。

（会場：国吉）

国吉と申します。札幌市のボランティアガイドと札幌商工会議所のボランティアガイドをしております。昨日はこの公園を案内させていただきました。市電を利用しての部分でしたから，園内はほんの僅かでしかありませんでしたが，数十年来，札幌に住んでおりまして，中島は自分達の遊び場という時代もございました。そうしたことをいろいろ経験してみて非常に感じるのは，中島公園の魅力自体，或いは歴史的な，文化的な遺産がありながら市民に余り知られていない，もちろん観光客にはまったく知られていない。先程，石川さんがおっしゃったとおりです。そういったことで，もう少し行政サイドの方も利用させて頂いて札幌市なり或いは札幌商工会議所などはこの公園に70周年記念碑まであります，昔はそういった流れもあったようですから，私が口幅ったいことを言うつもりはありませんが，素直に受けた印象としては，そういう窓口をうまく利用されて，魅力ある公園にするためには，まず知ることだろうと思います。中島公園そのものを地元に居りながら余りにも知らない。地元が分らないから本州から来札する観光客に説明

が出来ない。これでは公園の価値や尊厳が無くなってしまうのではないでしょうか。私は当時生まれておりませんでしたが，50周年博覧会などを見ておりますと，すごい公園だったのだなあと感じます。そうした魅力を再発掘して頂いて，専門家が沢山いらっしゃるわけですから，何とか維持して頂きたい。今回，三十三選選定プロジェクトを見まして，これだけきめ細かく様々な資料をおHPでは出会わせて頂いた者ですが，分らないものがいっぱいあるのです。白鶴橋のところに「一声荘」というのが在るのですけれども中根という方の旧宅らしいのですが，（今は石川さんに問い合わせするしかなく，）そういった場所を問合せできる観光案内所といった市の施設を持ち込む位のことがあってもよいのではないでしょうか。

（会場：伊藤）

伊藤と申します。4名の先生から中島公園についてお話を伺って，よく分ったのですけれども，私の発言に間違いがあればお許しいただきたいのです。嘗てこの公園には貯木場があり，冬場は氷を切り出していたとか，そういう歴史があった。競馬場や放送局もあった。

これらの歴史を次世代，将来に伝えていくためにも公園内にサインでも宜しいので，残してあげられないものでしょうか？或いは小規模でもよいのですが博物館的な施設があったら良いのではないでしょうか。氷の切り出しや，若い頃にはスキーやスケートをなさった経験をお持ちの方もいらっしゃるのではないでしょうか。こういったものを来園者の皆さんに伝えることが出来ないものでしょうか，講師の皆様にお伺いしたいのですが。

（橋本）

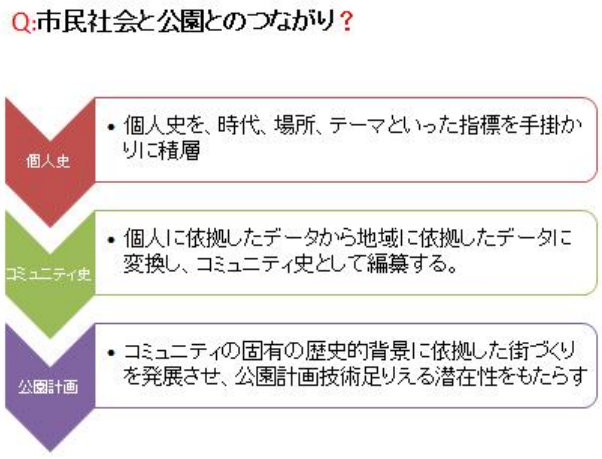
只今のご質問，前の方も同じようにお話でしたが，私もまったくその通りだと思います。過去100年，150年という大きな歴史を持っているのに私たち行き来している者に，殆ど伝わってこない，確かに学生時代は菖蒲池でスケートをし，動物園もあったし，サーカスも来たりして，これらの過去が埋もれて，風化して次の世代になかなか語り継げないのです。一番感じたのは，私も石川さんも10年ほど関わってきていて，木下成太郎の像があって，これは浅倉文夫が造った大変に芸術性の高い作品ですが，この人物は北海道の開発に多大な貢献をなさった方です。しかも武蔵野美術大学と大東文化大学の創設者であって，日本の芸術・文化に大きな関わりを持った方でした。このことについては殆どの札幌市民は知りません。これは70年ほど前の出来事で，戦前，戦中，戦後という戦時の時代の中で知ることを許さない時代性の歴史を持っていて，70年後の今になって誰も知らない状況が出来てしまいました。しかし貴重な芸術作品の像でもあり，何とか前面に出しながら札幌中島を代表するものとしてアピールして行かなければなりません。これを紐解いていくために，なかなか備わっていないというべきか，仲間で広く話し合っていかなければならないとか，行政的なところへ訴えていかなければいけないという機運が整っていなかったのです。これから我々が次世代に引き継がなければならないこと，何をどのように，といったように，或いはＩＴを駆使したHPの活用なども必要です。昨年は木下成太郎を題材としたシンポジウムも開催致しました。こうした市民の努力が必要ですし，我々の手でこうした手掛かりを作っていく必要があります。「行政に任せておけないね。」という思いが非常に強くなってきております。こうしたことが今回のような機会の中から生まれて来てくれれば有り難いことだと思っております。

（会場：檜山）

私は札幌市青少年係に勤務しております檜山と申します。天文台の管理しており，皆様には日頃からご利用頂いております。おこがましいのですが三十三選にお選び頂き有り難うございます。三十三選では27番となっておりますが，展望台（岡田山）と記載して頂いておりますが，岡田山の由来が書いてあり，天文台があることも伝えて頂いております。この天文台50年は以上経過しておりまして展望台ではありませんが見晴らしはよい場所です（笑）。しかし星を見る天文台として紹介されていないので，そういった所をアピールして行きたいと考えております。もしご一考して頂けるのであれば，天文台をアピールして欲しいのです。この天文台を少しアピール致しますと，都市の天文台は郊外へ移転して行くことが多いです。逆に言いますと都市内にある天文台は珍しいといえます。裏を返すと街中は夜，明るいので星は見難くなってしまうのですけれども，此処の天文台からは充分に土星の輪ですとか木星の縞模様，月のクレーターなどの観察は出来ますので，逆に街中の天文台をアピールして行きたいと思っておりますので，これからもご利用頂きたいと考えております。天文台はKitaraさんの向かいにありますので，Kitaraさんとも共同でイベントをおこなったり，コンサートのあと，芝生の上に望遠鏡を出して鑑星会などをやっていければ，などと考えております。今後ともご協力いただきたいと思います。

（Co小林）

だいぶん時間も迫って参りましたけれども，先程，伊藤さんからもご質問がありましたとおり，歴史的なものを如何にメッセージとして発信して行くべきか，大きな課題だと思います。三十三選についてもあり方を確立し，橋本さんがキーワード的な言葉をおっしゃっておりましたが，「市民文化は市民の手で」とのことなのだろうと思います。一つは過去の事実を正確に伝えていくことが非常に大事なことです。事実は事実として伝えることは大事ですが，次世代に魅力を伝えていくにはそれだけでは足りない。というのは今の世代がそれを使っていって，価値を決めて，そこに思いや呟きをそれらの事物に乗せながら，新しい価値を皆で作って，共有して行くことをしていかないと，過去のことだけ喋っていても，新しい魅力になってこない。そこのところがなかなか難しいのですが，石川さんがやっておられるように，インターネットを使って情報発信を出来る時代になっているので，これらを活用することで，新しい公園の管理，価値発信の仕方が出来るかも知れないと思います。公園の魅力というのは，使う人が発見するのですが，橋本さんが先程おっしゃられたように「昔は虫取りなんかをしていた。」。　今，公園の中ではそんな遊びが見えなくなっています。では，それが何故消えたのかということも含めて，もっと使い



方の情報を発信すれば，使って頂ける，使って頂く中で魅力を見出して行けるので，皆で共有して作っていく仕組みを作らなくては，中島公園の魅力が見えて来ないし，膨らんでいかないのではないでしょうか。

このようなことが皆さんのご意見を伺いながら，私にはぼんやり見えて来たような気がします。　最後になりますが，笠さんからコメントをいただけないでしょうか。

（笠）

今日は本当に，ありがとうございました。

私も一昨年から大通公園，円山公園，今回の中島公園に関わって来たということもありまして，3 公園の歴史を学ぶにつれて，非常に色々なことが見えてきました。そういう成果を冊子という形に出来たのですけれども，残念ながらこれはほとんど一般市民の手に渡っていないのです。（「札幌のまちとともに歩んだ公園」：札幌市 2011.10）

今日ここにいらした方は，たまたま手に入れられましたが，僅かな部数しか印刷されておりません。本当は 1 部@100 円位で販売するか，無料配付するのか，もっと行政の方もアピールしないと，中島公園の魅力を誰も知らないということにも繋がるので，その面での努力が，まだまだ不足しているのかも知れません。

私は今，中島公園事務所のお手伝いをしながら，三十三選プロジェクトを始めております。これからは作る時代からマネジメントする時代に変化したと言われますが，特に公園の管理というものを考えた場合に，今まではただ木を切ったり，芝生を刈ったり，ゴミを拾ったりというのが公園の管理だったわけです。これからはそうではなくて，公園の価値を見つめ直す，或いは，価値を回りに情報発信することによって，先程来，橋本さんや石川さんがおっしゃっていたように，住民や事業者も巻き込むような形で，様々な活動が盛んにおこなわれる。情報発信や情報交換が出来てきた時に始めて公園の価値が上がり，グレードが高くなるといった取り組みを行っていくことがこれからの公園の管理だろうと思っております。

公園の管理というのは誰がするのだろうか？行政や実際に公園の管理に携わる指定管理者の事務所の存在がありますけれども，実は公園の管理というものは市民がやるものだということを強くアピールする必要があります。まさに，モデルケースが今，この中島公園から始まっているのだと思っております。

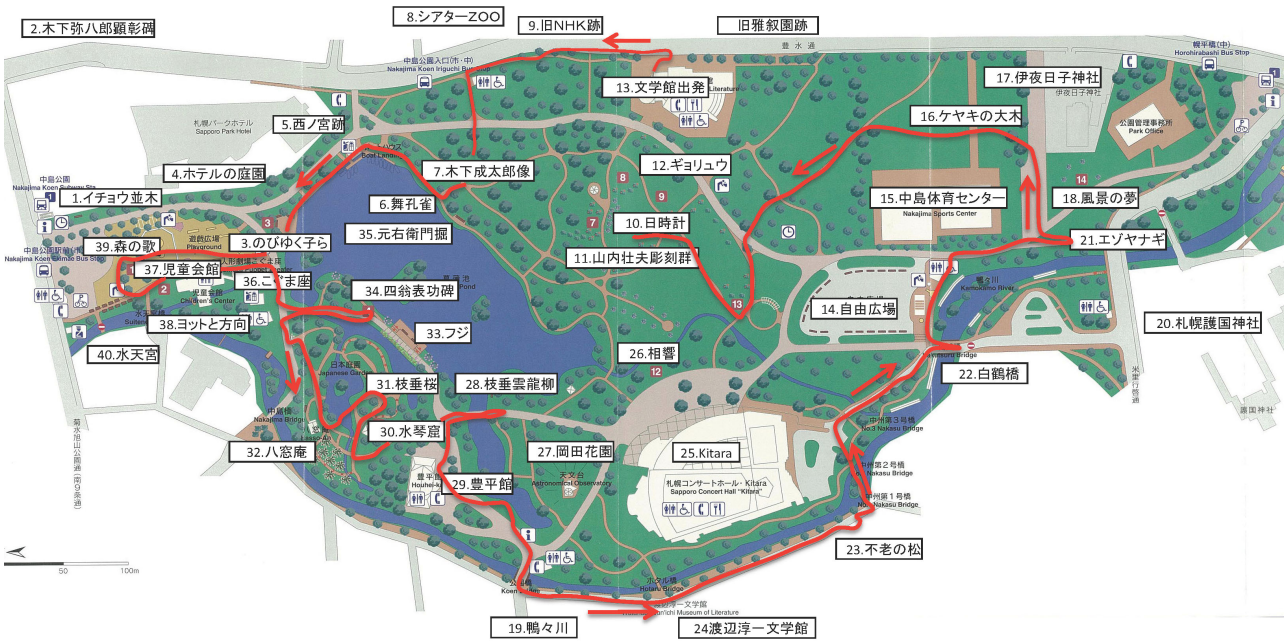
あと 1，2 年情報発信までかかると思いますが，達成できた成果を他の公園も取り入れて，もっと札幌市内中の公園に広めて行きたいと思います。今回がそういったきっかけになればよいと私は強く思っております。

（Co 小林）

本日は長時間に渡りまして，会場の皆様にはご参加頂きまして，誠に有り難うございました。ランドスケープシンポジウム２０１１はこれをもちまして本日の午前の部のシンポジウムをお開きとさせていただきます。

3.　第２部　中島公園見どころ探訪ツアー　　13 :00～14 : 40

あいにくの天候でしたが，熱心な参加者が参集されたので，定刻に文学館前を出発して下記の経路でご案内した。途中から雨が強くなったが，最後まで熱心に公園内の見どころポイントを見て歩くことができた。経路については下記の通りである。



中島公園見どころ探訪ツアー

2011.10.22　13：00～15：00

それぞれのポイントについての，概略の内容は次の通りである。

1.　北海道立文学館　(1995 年・平成 7 年)
北海道出身の文学者や，北海道にゆかりの深い文学者に関する文学資料を展示するために開設されたもので，1995 年に北海道が設置したものである。

2.　NHK 跡地　(1926 年・大正 15 年建設)(1957 年・昭和 32 年移転)
大正 15 年，日本放送協会北海道支部が設立され，この地に演奏所が建てられて昭和 3 年 6 月 5 日からラジオ放送が始められた。テレビ放送が開始されると，大通に NHK とテレビ塔が建てられ，この場所での役割を終えていったのである。

3.　扇谷記念スタジオ・シアターZOO　(2001 年・平成 13 年)
平成 13 年，使われなくなったマンションの地下室を改修して，客席数 90 席の劇場と 二つ

のスタジオを整備した。札幌を初め，北海道内外の団体による演劇を中心とした舞台芸術を楽しめる。

4. 木下成太郎像　(1941 年・昭和 16 年)
但馬の国豊岡の出身で，父弥八郎と渡道して開拓にあたり，のちに衆議院議員として国政でも活躍している。後の大東文化大学や武蔵野美術大学などを創設した教育者としても知られ，昭和 16 年に建てられた彫像は，供出も免れて現在に至っている。

5. ハウウチワカエデ‘舞孔雀’
かつて豊水通の向こう側にあった料亭「雅叙園」の玄関脇にあった名木。道路の拡幅に合わせて廃業したため，庭木を公園に寄贈した名残の木である。庭木のうち，街路樹ますの位置にあったヨーロッパクロマツは現在も残されている。

6. ボートハウス　(旧西の宮支店跡) (1907 年・明治 40 年開業)
中島遊園地時代，札幌区には公園を整備する予算がなく，民活によって賑わいを演出した。現在のボートハウスの辺りには料亭「西の宮」の支店があった場所である。このほかにも大中亭，日吉亭，大正亭，臨池亭などの料亭やお休み処が池の周囲に建てられていた。

7. 札幌パークホテルの庭園　(1964 年・昭和 39 年)
元ホテル三愛，後に札幌パークホテルになる。この庭は北大の明道教授を代表とするデザインチームによって計画され，藻岩山を背景に菖蒲池の水が流れ落ちるように配置されており，公園と一体感を醸しだしている。

8. イチョウ並木　(1919 年・大正 8 年頃)
中島公園のメイン入口から伸びるイチョウ並木。大正 7 年に行われた開道 50 年記念博覧会のあと，植栽されたものであるといわれる。

9. 森の歌　(1959 年・昭和 34 年)
山内壮夫の代表作の一つで，もともと中央広場の噴水の中にあり，当時は白亜のセメント製の彫刻であった。公園再整備に合わせてブロンズ像に改鋳され，現在地に移設されたものである。

10. 水天宮　(1879 年明治 12 年勧請) (1889 年明治 22 年建立)
明治 12 年頃，旧久留米藩士水野源四郎が故郷久留米の水天宮の御分霊を札幌に勧請したが，市内を転々とし，ようやく明治 22 年に現在地に社殿を建立した。向かって右の祠が稲荷大明神，左が白峯大明神となっている。

11. ヨットと方向　(1985 年・昭和 60 年)
昭和 60 年５月に林正美が制作したもの。当時の札幌の姉妹都市ポートランド，ミュンヘン，瀋陽の方向を示したものである。

12. 中島児童会館　(1949 年・昭和 24 年)
戦後まもなく，公園内には進駐軍の兵舎ができたが，その後移転したためその兵舎の払い下げを受け，中島児童会館を建設した。わが国初の児童会館は東京に生まれたが，遅れることわずか六日後にここが開館したのである。

13. 人形劇場こぐま座　(1976 年・昭和 51 年)
大正時代から人形劇や童話会の伝統があったが，昭和 28 年から児童会館で人形劇や腹話術が始められ，日曜子供劇場に発展していった。昭和 51 年７月，専用の人形劇場を開設し，こぐま座と名付けられて現在に至っている。

14. のびゆく子等　(1976 年・昭和 51 年　)
新一年生のお母さんの集いを記念に建立されたもの。小野健壽制作で，昭和 51 年 11 月 20 日に設置されている。

15. 四翁表功碑　(1918 年・大正７年)
札幌の開拓初期に尽力した４名（水原寅蔵，大岡助右衛門，石川正叟，対馬嘉三郎）の四翁の功績を讃え，開道五十年記念の大博覧会が開かれた大正 7 年に立てられたものである。

16. フジ
わが国にはノダフジとヤマフジの二種が自生し，ノダフジは古くから観賞用に植えられている。藤の花は家紋にもよく使われるように，古くから工芸や文学にも登場し，なじみ深い花であるといえよう。

17. 八窓庵　(1987 年移築・昭和 62 年移築)
江戸初期の茶人小堀遠州が，江州小室郷の菩提寺弧蓬庵に作った茶室「舎那院忘筌」を，大正８年に札幌に移築した。その後持ち主が変わったが，昭和 62 年に札幌市に寄贈され，現在地に曳き家で移築されている。この建物も，国指定の重要文化財に指定されている。札幌に移築時に，左側部分に当たる三分庵を付設し，水屋等を作って利便性を高めたと言われている。

18. シダレザクラ(枝垂桜)

本来はエドヒガンの枝垂れるものを指すが，ほかの系統にも枝垂れ性のものがあり，それらの総称として使われている。三春の滝桜や京の円山公園の一重白彼岸枝垂桜などの銘木が多い。

19. 水琴窟

日本庭園に於ける隠し技の一つで，手水鉢からの水を，地中に逆さに埋めた瓶の中に落として水音を反響させるものである。

19. シダレウンリュウヤナギ(枝垂雲龍柳)

ウンリュウヤナギは枝がくねくねと斜上して特異な樹形になり，切り枝としても利用される。中国原産のペキンヤナギの変種であるが，公園内にはさらにこれが枝垂れるヤナギがあり，仮にシダレウンリュウヤナギと名付けている。

20. 豊平館　(1881 年・明治 14 年建設)(1957 年・昭和 32 年移築

明治 14 年の天皇行幸に合わせ，わが国初の洋造旅館（ホテル）として建てられた豊平館は，元大通西一丁目にあったが，テレビ塔の建設により，昭和 32 年に現在地に移築された。国指定の重要文化財に指定されている。

21. 天文台(岡田山)　(1889 年明治 22 年起工)(1958 年・昭和 33 年建設)

Kitara から豊平館，日本庭園の一帯は，明治時代に岡田花園のあった場所である。和漢洋の様々な花卉を植え，園亭を構えて園遊会場としての機能を持っていた。その名残を残す天文台のある小山を，今でも岡田山と呼んでいる。天文台は北海道大博覧会のあと，昭和 33 年に湖の山の上に建設されている。

22. 鴨々川

札幌の基盤を作った岩村通俊判官は，京の町を意識し，アイヌ語でモイワと呼ばれた小山に円山と名付け，麓に円山村を開設している。この川も京の鴨川を意識したものだと言われており，数条あるので鴨々川とした説もある。

このほか，アイヌがサケを取るときに使う曲げわっぱであるという説もあったが，最近になってアイヌ語の「土砂が上に被さって詰まったところ＝カモカモ・カムカム・カムム」に由来する地名である，という説が発表されている。

23. 渡辺淳一文学館　(1998 年・平成 10 年)

道内に進出した大王製紙が，メセナ活動の一環として，北海道出身の作家渡辺淳一の文学展示室を中心とした「エリエール　スクエア札幌　渡辺淳一文学館」を 1998 年に建設したものである。

24. 不老の松の碑　(1941 年・昭和 16 年)
この場所にはかつて料亭『鴨川』があった。このクロマツは明治 4 年にこの地に入植した者が植栽されたものであるといわれ，植栽後百年目に当たる昭和 16 年に，この碑が建てられている。

25. 菖蒲池（元右衛門堀跡地）
開拓初期には，豊平川上流から流送される木材の貯木場として利用され，その工事を請け負った鈴木元右衛門の名をとり，「元右衛門堀」と呼ばれた。当初は四角の二つの堀であったが，公園整備に合わせて池をつなぎ，園亭を設け，少しずつ形を変えながら現在の形になっている。

26. 札幌コンサートホール Kitara　(1997 年・平成 9 年)
1997 年，中島公園内遊園地施設「子供の国」跡地に，北海道初の音楽専用ホールとして開館した施設である。特に音響効果がすばらしいとの評判があり，世界各国の有名演奏家が来演している。

27. 相響　(1997 年・平成 9 年)
美唄出身の国際的に活躍している彫刻家安田侃の作品。イタリアのピエトラサンタから産出される白大理石から掘り出された彫刻で，1997 年に Kitara の開設に合わせて設置されている。館内にあるものとセットになっており，二つで一つの作品である。

28. 白鶴橋　(1887 年・明治 20 年)
明治大正両天皇が皇太子時代に札幌に行幸され，山鼻からこの橋を渡って中島に入られたため，この橋は車が通れないようにされていたという。もともとここに競馬場があった時，川を渡って馬場が作られたため，この部分の園路は今でも直線のままになっているという。

29. 自由広場
公園内に設置されている広場で，まさに自由な使い方ができるため，春の園芸市や札幌祭りの出し物，メーデーなどの集会，フリーマーケットなど，様々な催し物が行われている。

30. エゾヤナギ(公園一の老木)
中島公園の場所は，もともと豊平川の河川敷であり，ヤナギを中心にした水辺を好む木が生えていたと考えられる。中でもエゾヤナギは護国神社にかけて大木が数本あり，園内一の太い木が橋のたもとに立っている。

31. 風景の夢　(2000 年・平成 12 年)
小田 襄(おだ　じょう)の作品で，国際的金属造形作家として知られ，ステンレスを使った作

品がおおい。当初は芝生内におかれていたが，回りを整備して休憩施設が整備されている。設置年は2000年。

32. 札幌市中島体育センター　(1980年・昭和55年)
昭和55年4月，「北海道立中島体育センター本館」として開館し，平成12年11月に札幌市に移管され，「札幌市中島体育センター」と名称を改めて現在に至っている。

33. ケヤキ(公園一の大木)
もともと北海道には自生していない樹木であるが，なじみ深い樹種のため古くから植えられてきたものである。元の偕楽園である伊藤邸や大通公園6丁目などに大木が見られ，この木もそれらと同じ頃に植えられたものであろう。この木の西側に，枝が広がらず，ほうき状になるケヤキの品種‘むさしの1号’が植えられている。

34. 伊夜日子神社　(1912年・明治45年創建)
札幌は越後の出身者が多く，新潟にある弥彦神社の分霊を得て，明治45年1月に伊夜日子神社を創建した。夜日子神社は天照大神の曾孫天之香具山命を祀っているが，昭和61年には太宰府天満宮からの御分霊を得て増祀している。

35. 山内壮夫彫刻群　(1959年・昭和34年以降)
(猫とハーモニカ･鶴の舞･笛を吹く少女･母と子の像)
北海道大博覧会のあと，昭和34年から40年にかけて，公園が整備されて百花園や噴水が設置された時に，噴水の中央に森の歌が，百花園のバラ園内に笛を吹く少女，母と子の像，猫とハーモニカ，鶴の舞が設置された。いずれも山内壮夫の制作で，白セメントで作られていた。

36. 日時計　(2008年・平成20年)
日本時計貴金属眼鏡小売組合連合会が，創立25周年記念大会を札幌で開催した記念に，寄贈されたものである。北海道洞爺湖サミットの開催を記念して，2008年の「時の記念日(6月10日)」に寄贈されたもの。

37. ギョリュウ
中国内陸部の原産で，耐寒性や耐塩性が強い樹種である。新芽を伸ばすにつれて花芽ができるため，暑い夏には三度も花を咲かせることがあり，「三春柳」という名もある。

〈下記の２件はツアーコースから外れていたので，ご案内していない。〉

■木下弥八郎顕彰碑　(1929 年・昭和 4 年)

公園内に彫像のある木下成太郎の父で，豊岡藩の家老。後に家老を辞し，勤王の志士と交わって倒幕に貢献したが，中央には残らず北海道開拓に来道。漢文で書かれた碑文は時の総理大臣原敬の撰，公爵西園寺公望の題額からなる。

■札幌護国神社　(1907 年・明治 40 年建立) (1939 年・昭和 14 年改称)

もともと屯田兵招魂碑は北の偕楽園にあったが，手狭になったため，日露戦争後の明治 40 年に中島に札幌招魂社を建立。昭和に入って現在地に拡張移設し，昭和 14 年に札幌護国神社と改称している。

ツアー配布資料

中島公園　見どころ探訪ツアー

ガイド　笠　康三郎

日本造園学会北海道支部副支部長、（有）緑花計画代表取締役

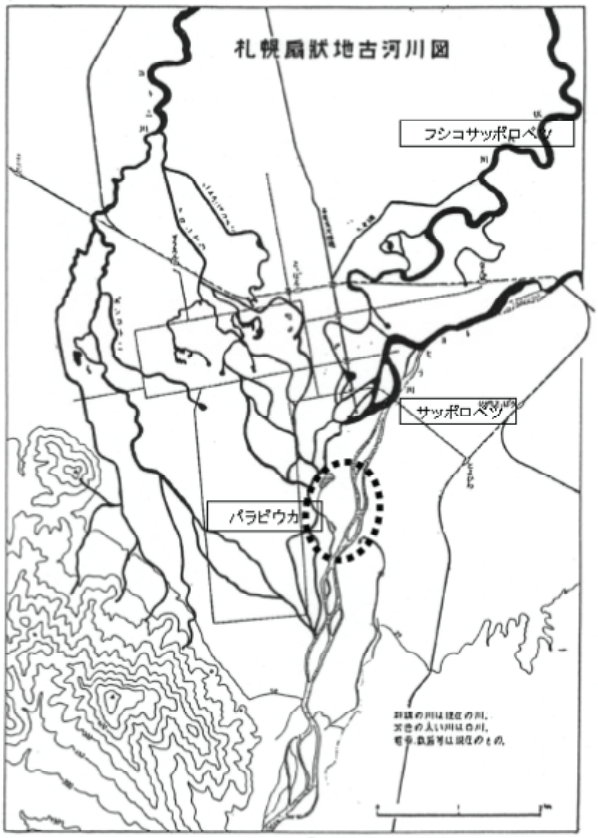


図４　札幌扇状地古河川図（札幌市史「政治行政篇」より・昭和28年発行）

•札幌の語源はサッポロ(乾いた大きな土地)というのが一般的である。

•現在は豊平川と名付けている川は、本来サッポロペッと呼ばれていた。

•軍艦岬を過ぎたあたりから、東西に流路を変え、藻岩山と月寒台地の間に広大な扇状地を形成してきた。

•開拓初期には、分流の一部は琴似川に流れ込んでおり、町の発展とともに消えていったという。

•最後の流路の変更は19世紀の初め、苗穂から東に折れて現在の流路になり、この時切り離されたのがフシコサッポロペッ(古い札幌川)である。

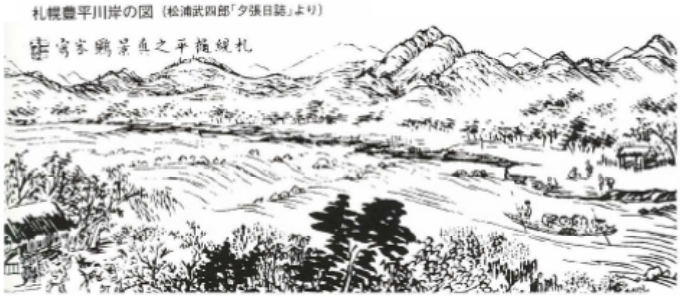
•豊平川の名前は、平岸台地を削ってできた崖(トイピラ＝樋平)から来ている。川の名前が町の名前に、崖の呼び名が川の名前になった訳である。

•扇状地のため、扇央部(山鼻)には礫だらけの乾いた土地(パラピウカ)が広がり、扇端部にはメムを形成した。

•この地図にある旧流路は、かすかな痕跡を町の中に残している。

•中島公園は、鴨々川と本流に挟まれた場所に設定されたものである。

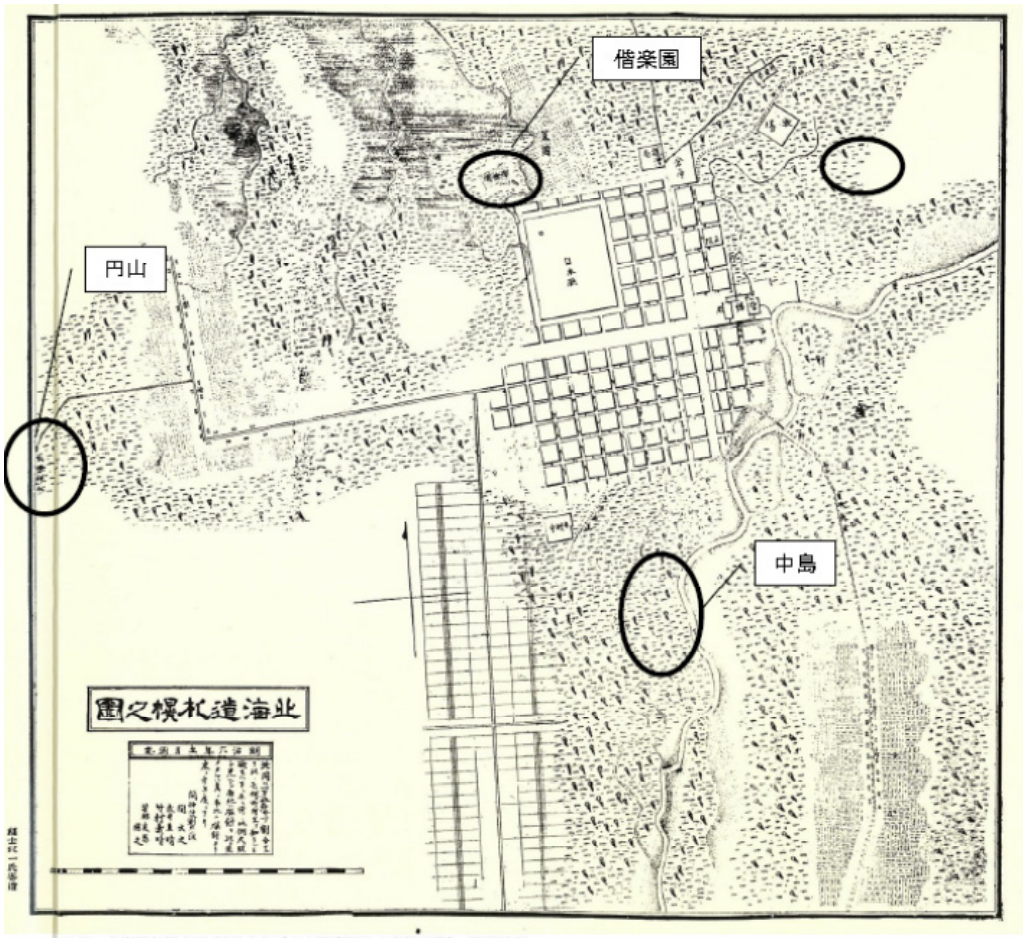
札幌豊平川岸の図（松浦武四郎「夕張日誌」より）



•札幌の町並みは、明治２年に開拓主席判官島義勇が円山の麓コタンペツの丘より見渡し、大友堀との交点を町の原点に設定したことに始まる。

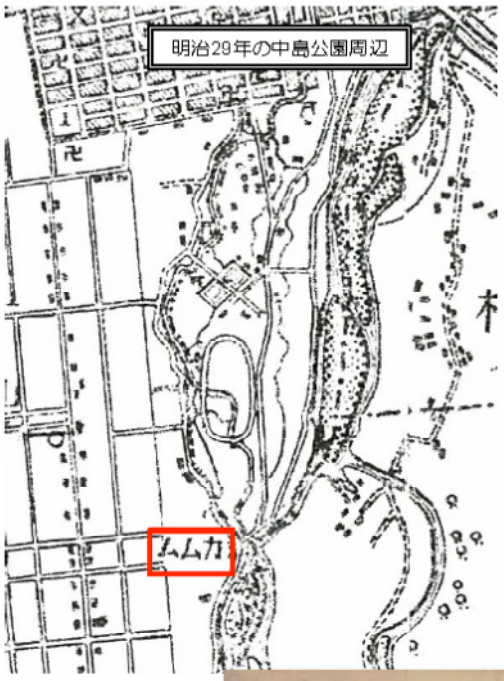
•その当時の札幌の住人は、石狩役所より樋平の渡し守を命じられていた志村鉄一(左の小屋)と吉田茂八(右)の家族のたった７人であった。

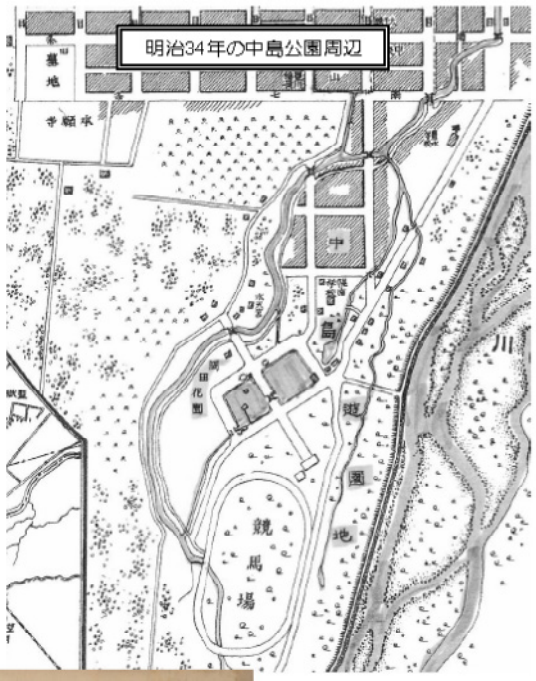
参考文献
・さっぽろ文庫「札幌の河川」「中島公園」「札幌歴史写真集」「札幌歴史地図」
・中島公園百年、北海タイムス社、S63・さっぽろ山鼻百年、S52、札幌百年のあゆみ、札幌市、S45



▲3．北海道札幌之図〈明治6年〉(北大図書館北方資料室蔵)—解説33頁—

27 創成川の貯木池(明治5年頃)　本陣より西南を望む


明治29年の中島公園周辺
ムムカ


明治34年の中島公園周辺
墓地
中
島
遊
園
地
競
馬
場

明治40年 長岡安平による設計図
中島公園設計図

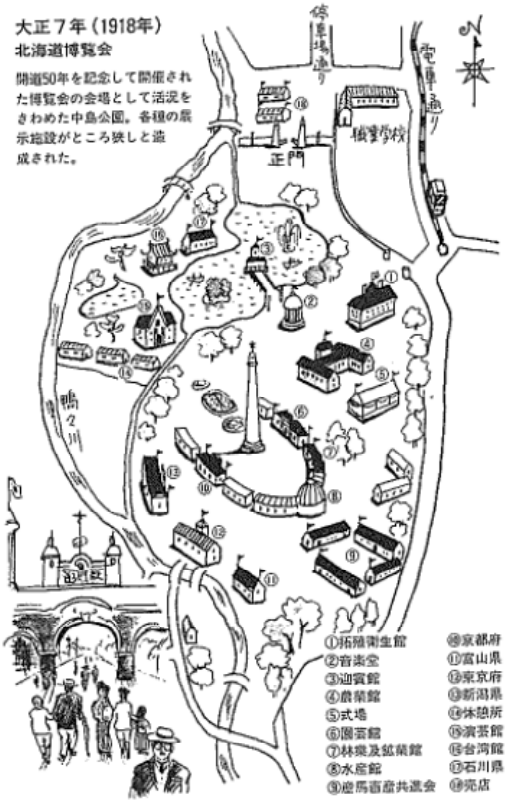
開道五十年記念北海道博覽會　第一會場

3 変遷図

岩川 亜矢

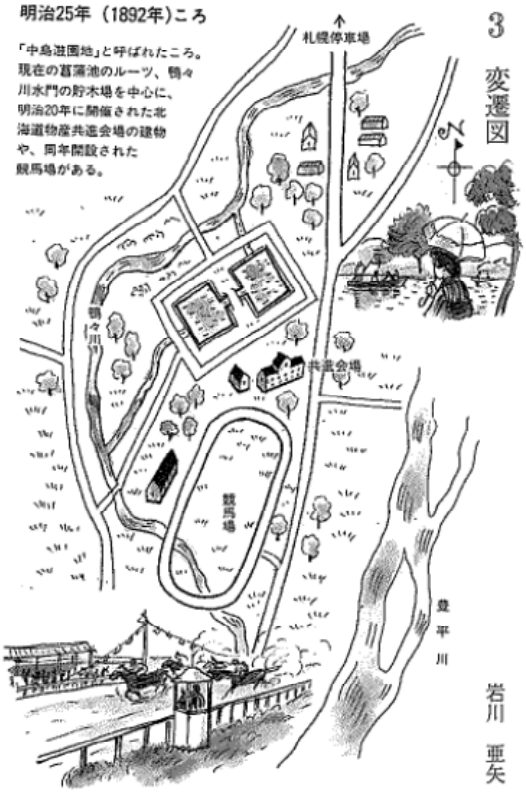
大正７年（1918年）
北海道博覧会

開道50年を記念して開催された博覧会の会場として活況をきわめた中島公園。各種の展示施設がところ狭しと造成された。



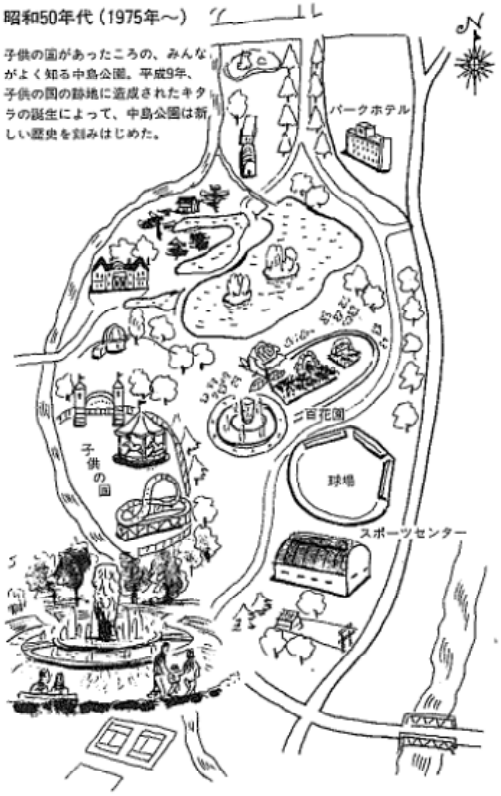
明治25年（1892年）ころ

「中島遊園地」と呼ばれたころ。現在の菖蒲池のルーツ、鴨々川水門の貯木場を中心に、明治20年に開催された北海道物産共進会場の建物や、同年開設された競馬場がある。



昭和50年代（1975年～）

子供の国があったころの、みんながよく知る中島公園。平成9年、子供の国の跡地に造成されたキタラの誕生によって、中島公園は新しい歴史を刻みはじめた。



戦後（昭和29年/1954）

進駐軍の宿舎だったかまぼこ型兵舎が児童会館、旧農業館が北海道地下資源調査所、旧拓殖館が札幌短期大学として利用されていた。現札幌パークホテルの位置には中島中学校があった。

4.円山公園関連の歴史概要

ランドスケープシンポジウム 実行委員会

開拓期以来の中島公園周辺の出来事

年代		北海道・札幌の動き	中島公園周辺の動向
1868	明治元年	明治維新	
1869	明治2年	開拓使設置。島義勇本府建設に着手	
1870	明治3年	島判官罷免、後任に岩村判官	東本願寺管刹(寺)として設立
1871	明治4年	市街地の区画設定、偕楽園開設	鈴木元右衛門堀完成、辛未一の村開設
1872	明治5年	開拓使仮学校東京芝増上寺に開設	御用火事により茅屋焼き払い、辛未一の村は琴似方面に離散
1873	明治6年	岩村判官罷免、後任に松本判官	
1874	明治7年	琴似・山鼻屯田兵村建設	吉田堀、大友堀、寺尾堀を合わせて創成川と命名
1875	明治8年	札幌学校移設	
1876	明治9年	札幌農学校開校、大通に花草園を設置	札幌別院と改称
1877	明治10年	クラーク帰国	水原寅蔵りんご園を始める
1878	明治11年	農学校演舞場(時計台)完成	
1879	明治12年	豊平館建設着手、偕楽園脇に競馬場設置	
1880	明治13年	清華亭建設、幌内鉄道開通	
1881	明治14年	明治天皇北海道巡幸	
1882	明治15年	開拓使廃止。札幌函館根室三県設置	中島周辺住民が公園予定地の陳情、山鼻村長学田下渡上申
1883	明治16年	札幌の人口が一万突破	札幌区より公園予定地の要望
1884	明治17年		
1885	明治18年		
1886	明治19年	三県廃止、北海道庁設置岩村長官	中島遊園地建設開始し、札幌区に編入。住所が中島遊園地に
1887	明治20年		北海道物産陳列場建設、北海道物産共進会場中島で開催
			偕楽園付近にあった競馬場を移設
1888	明治21年	赤れんが庁舎完成	大中亭を設け、池にウグイを放流、花火打ち上げ開始
			永山武四郎主催の園遊会が中島で開催
1889	明治22年	帝国憲法発布	岡田佐助が官有地を借り、岡田花園を起工、水天宮現在地に遷座
1890	明治23年	札幌の人口が二万突破、札幌製糖工場完成	中島の池にコイと金魚を放流
1891	明治24年		山鼻妙見宮仮安置
1892	明治25年		岡田佐助の義弟槙彦三郎が岡田花園経営
1893	明治26年	札幌麦酒工場	
1894	明治27年	定山渓-虻田間道路開通	遊園記念碑建立
1895	明治28年	日清戦争講和	山鼻妙見宮移座
1896	明治29年		堤防敷地2万3千坪遊園地編入
1897	明治30年		貸しボート開始
1898	明治31年		
1899	明治32年	札幌区制施行自治始まる	
1900	明治33年		
1901	明治34年		
1902	明治35年		
1903	明治36年	札幌農学校現在地に移転	
1904	明治37年	屯田兵制廃止	パノラマ館建設
1905	明治38年	日露戦争講和	
1906	明治39年	五番館赤煉瓦	北海道物産陳列場新築
1907	明治40年	小川二郎　大通に花壇造成	東京府技師長岡安平に中島と円山の公園設計依頼
		競馬場桑園に移転	札幌招魂社建立、屯田兵招魂碑偕楽園より移設
		東北帝国大学農科大学に昇格	今のパークホテルの所に西の宮支店を開業。大迫将軍像建立
1908	明治41年		忠魂碑建立、札幌招魂祭開催
1909	明治42年	石山通馬鉄開通	新渡戸稲造歓迎敵鷲協会総会を岡田花園で開催
1910	明治43年	周辺町村の一部を併合して拡張	中島遊園地の整備、以降は中島公園と公称、円山公園開園
1911	明治44年	石狩街道馬鉄開通	皇太子殿下行幸。山鼻から南14条通を東進し、中島公園へ
1912	明治45年	札幌区史編纂	彌彦(伊夜日子)神社創建
1912	大正元年		
1913	大正2年		
1914	大正3年	第一次世界大戦勃発	岡田花園納涼大会開催
1915	大正4年		
1916	大正5年		
1917	大正6年		

編集後記

2009年に大通公園，2010年に円山公園，2011年に中島公園，札幌都心3公園のシンポジウムを連続して開催できましたことに，基調講演の演者，パネリストの方々，シンポジウムの運営を支えて下さったスタッフの方々，ご後援をいただいた官公庁，関係団体のみなさまに厚く御礼申し上げます。

今からおよそ100年前，当時，造園の権威であった東京市技師の長岡安平に公園設計を委嘱して設計された，札幌都心の3公園の歩みを振り返ることで，造園関係者のみならず，公園に興味や関心をもっておいでになる札幌市民が，札幌都心における緑地に対する，次の100年の大計を考える契機となることを期待し，シンポジウムを開催いたしました。

その答えを具体化する上で，行政のみならず，造園を専門とする人々の責務は重いものですが，札幌市民の資産として，さらに磨きをかけて次の世代に引き継ぐという希望と大志を市民と分かち合うことで，実現に向けたステップとすることができます。

21世紀に入り12年が過ぎました。生物多様性の保全，都市社会における自然への関心の高まり，高齢社会における公園の役割の充実化，都市環境や景観問題への対応，魅力ある都市空間形成における公園の文化的価値の再評価，公園指定管理者制度の導入など，公園を取り巻く環境変化は一段と加速している感があります。また，東日本大震災を契機に，都市防災における公園による減災効果，災害直後の支援・復旧に向けた価値も見直されつつあります。都心に居住するあるいは観光で訪れる方々の生活や体験に直結する重要かつ喫緊な課題に対処する公園の役割について、大通公園，円山公園，中島公園は，先導的議論を起こし、実現化に向けた具体的歩みを示す役割が求められています。

改めて，関係にみなさま方に対しまして，これまでのシンポジウム開催にあたり，多大なるご協力，ご支援を賜りましたことに，シンポジウム実行委員会を代表して，厚く御礼申し上げますとともに，都心3公園のこれからの行く末に対して，これまで同様のご理解・ご支援を賜りますよう，よろしくお願い申し上げます。

ランドスケープ実行委員会
平成24年3月10日
（文責：小林　昭裕）